２０２４年度

講　義　概　要

保育・幼児教育学科

学籍番号		氏名	

大阪健康福祉短期大学

《講義概要の見方》

★講義概要（シラバス）とは、講義の内容や予定、到達目標や評価の方法などの授業計画がまとめられた資料のことです。今年度２年生を対象に開講される科目を目次にそって記載しています。講義概要の各項目の見方は、下記を参照してください。

（１）講義等情報

①授業の種類

主にどのような形態で授業が展開されるのかを示します。

講義…教員が説明したり、学生と対話したりすることを通して学習内容を伝える方法

演習…模擬的な対象を設定して、体験的に学習内容を伝える方法

②授業担当者

科目によっては複数の教員が担当する授業があります。オムニバス形式の授業では、複数の教員が単独で登壇して授業を展開します。

③配当

開講される時期を表しています。

④必修・選択

卒業や資格・免許を取得するにあたり、履修が必要かどうかを示しています。

卒業必修…卒業するために必ず履修しなければならない科目

資格必修…保育士資格を取得するために必ず履修しなければならない科目

幼免必修…幼稚園教諭二種免許状を取得するために必ず履修しなければならない科目

選択必修…保育士資格を取得するために指定した科目

選択…資格や免許取得に関係のない科目

（２）授業の目的・ねらい

当該授業の学習を通して学生に期待する学習内容を示しています。

（３）授業修了時の達成課題（到達目標）

授業終了時までに学生に出来るようになってほしい事柄を示しています。

（４）準備学習の内容

各回の授業を行うにあたり、授業計画をみて事前に学んでおいた方がよい知識・情報が必要と思われるものについて記載しています。

（5）授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

授業の目的・ねらい、到達目標に応じて具体的なテーマ、内容を示しています。授業内での発表や課題解決型学習、グループワーク等の授業の進め方や方法を記載しています。

（6）試験

所定の回数の授業を実施した後に行われる試験について示しています。「なし」や空欄の場合、授業内評価によって評価が行われることを示しています。

（7）使用テキスト

授業で実際に使用するテキストを明記しています。毎回の授業で必ず準備する必要があります。

（8）参考文献

必ずしも授業内で使用しませんが、授業内容に関連して読んでおいたほうがよい文献を提示しています。

（9）試験の方法と学習成果の評価基準

①平常試験

ア、到達度の確認

平常授業時における提出物や講義のまとめおよび筆記またはレポートにより学力確認を行います。

イ、実技・作品発表等

平常授業時に講義のまとめおよび実技・作品の発表を行います。

②試験

ア、筆記試験

授業終了後に所定の期日に筆記による試験で評価を行います。

イ、レポート

授業終了後に期日を設け、指定された場所へ提出されたレポートによって評価を行います。

ウ、実技試験

授業終了後に所定の期日に実技による試験で評価を行います。

エ、面接試験

授業終了後に所定の期日に口頭による面接試験で評価を行います。

（10）フィードバックの方法

試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法を示しています。

目　　次

＜２年次＞

【教養科目】

卒業必修科目

情報リテラシー演習・・・・・・・・・・・・・1

選択科目

心理統計法・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

【専門科目】

卒業必修科目

表現技術Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
総合表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

幼稚園教諭免許必修科目

教育実習指導Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・8
幼稚園実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
国語教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

保育士資格必修科目

子ども家庭支援論・・・・・・・・・・・・・・15
子どもの理解と援助・・・・・・・・・・・・・17
子どもの健康と安全・・・・・・・・・・・・・19
社会的養護Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・20
子育て支援演習・・・・・・・・・・・・・・・22

幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格必修科目

教育制度論・・・・・・・・・・・・・・・・・24
幼児理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
幼児と人間関係・・・・・・・・・・・・・・・28
保育内容（環境）・・・・・・・・・・・・・・ 29
保育内容（人間関係）・・・・・・・・・・・・ 31
保育内容（健康）・・・・・・・・・・・・・・ 33
保育・教職実践演習・・・・・・・・・・・・・35

幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格選択必修科目

保育・育相談演習・・・・・・・・・・・・・・37
教育方法論・・・・・・・・・・・・・・・・・39

保育士資格選択必修科目

地域福祉論・・・・・・・・・・・・・・・・・41
臨床心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・42
障がい児保育Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・44
障がいのある人の発達保障・・・・・・・・・46
教材研究（絵本）・・・・・・・・・・・・・・ 48
教材研究（おもちゃ・製作あそび）・・・・・ 50
子どもの音楽表現Ⅰ・・・・・・・・・・・・52
子どもの音楽表現Ⅱ・・・・・・・・・・・・54
保育実習指導Ⅱ（保育所）・・・・・・・・・ 56
保育実習指導Ⅲ（児童福祉施設）・・・・・・ 58
保育実習Ⅱ（保育所）・・・・・・・・・・・ 60
保育実習Ⅲ（児童福祉施設）・・・・・・・・ 62

【本学独自科目】

卒業必修科目

キャリアアップ教育Ⅲ・・・・・・・・・・・64
保育研究ゼミⅠ・・・・・・・・・・・・・・・66
保育研究ゼミⅡ・・・・・・・・・・・・・・・68

選択科目

キャリアアップ教育Ⅳ・・・・・・・・・・・70

科目ナンバリング

当該授業科目の教育課程内の位置づけを表す番号です。授業科目に番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

講義概要の右下に各科目のナンバリングを示しています。

カリキュラムへのナンバリング

（例）

日本国憲法：１－Ｌ－３４－０１

- ０１ → 授業科目履修規程別表の最上部からの通し番号（科目番号）
- ３４ → 主に該当するディプロマ・ポリシー（DP）（※1）
- Ｌ → 授業科目の水準（※２）
- １ → 学年配当コード（１年次配当：１　　２年次配当：２）

（※１）ディプロマ・ポリシー

コード	該当 DP
１０	DP１
１２	DP１＋DP２
２０	DP２
３０	DP３
３４	DP３＋DP４
４０	DP４
５０	全 DP

（※２）授業科目の水準

コード	水準	内容
L	教養	教養科目
B	基礎レベル	専門科目　知識・理解
A	応用レベル	専門科目　方法・技能
PC	実践レベル	専門科目　実習・実技 キャリア関連科目
S	ゼミ	ゼミ科目

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
情報リテラシー演習	演習	野田　哲夫

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	卒業必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
情報教育入門（１年生講義）で学んだコンピュータとソフトウェアの基礎知識を基に、保育・教育の現場に出た際に使える技術・データ分析の方法等の習得し、簡単な総計処理ができるようになること目標とします。	4

[授業全体の内容の概要]

表計算ソフト（Microsoft Excel）による応用操作を中心に、データベースの操作、簡単な統計分析（基本統計量､相関、回帰分析、仮設と検定）を学び、プレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を応用して統計分析結果の発表方法を学びます。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

- ワープロソフト（Microsoft Word）を使ったレポート、報告書の作成（復習）
- 表計算ソフト（Microsoft Excel）を使ったデータベースの操作
- 表計算ソフト（Microsoft Excel）を使った簡単な統計分析
- ワープロと表計算ソフトを活用してプレゼンテーションソフト（Microsoft PowerPoint）を使った発表

以上を総合的に活用してレポートや論文やプレゼン資料作成し、報告ができることを目標とします。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) ワープロソフトの応用操作 Microsoft Word を使った応用操作について１年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。	Microsoft Word の復習（文書作成、編集）をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
2) 表計算ソフトの応用操作 Microsoft Excel を使った応用操作について１年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習・理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。	Microsoft Excel の復習（式の計算、関数、グラフの作成）をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
3) 表計算ソフトとデータベース Microsoft Excel 使ってデータベースとデータベースを使って検索・抽出、並べ替え等の操作について理解し、具体的なデータを使って処理方法について学びます。	テキストのデータを作成してデータベース操作の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
4) 表計算ソフトと統計分析 － １ 一つの変数を使った基本統計量（平均・最大値・最小値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等）についてその意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。	テキストのデータを作成をして基本統計量作成の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
5) 表計算ソフトと統計分析 － ２ 二つの変数の間の散布図・相関について学び、相関分析についてその意味（相関の正負・強弱が意味するところ）と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学びます。	テキストのデータを作成をして散布図の作成、相関分析の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
6) 表計算ソフトと統計分析 － ３ 二変数の回帰分析についてその意味(目的変数と説明変数を使って原因を推計する）意味と算出方法を理解し、Microsoft Excel で具体的なデータを使って処理方法について学ぶ。	相関分析の復習を行い、回帰分析の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
7) 表計算ソフトと統計分析 － ４ 母集団から抽出したデータ（標本）を使って母集団の統計量を推定、検定する方法について学び、Microsoft Excel のデータ分析機能を使って推定と検定を行います。	回帰分析の復習を行い、推定、検定の準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】１時間
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Word、Excel のデータも活用した Microsoft PowerPoint の応用操作を１年生（情報教育入門（機器操作を含む）で学んだ内容を基に復習理解し、表計算ソフトで処理したデータを使ってプレゼン資料の作成を行います。	統計分析のデータを整理して、プレゼンテーション用のデータの準備をしておきましょう。【準備学修に必要な時間数】１時間

[使用テキスト] 石村 貞夫（著）『Excel でやさしく学ぶ統計解析 2019』（東京図書）ISBN-13 ： 978-4489023170	
[参考文献] **『情報リテラシー教科書** Windows 10/Office 2021 **対応版**』ISBN-13 ： 978-4274229657　※1 年次に購入済み	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（　50%）	授業毎に課した課題の提出すること（Google Form を活用）。
②実技・作品発表等（　　%）	
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　50%）	インターネットリテラシー、Word,Excel,PowerPoint の基本操作の確認を問います。 Excel による計算、関数の理解と活用確認、グラフ作成とデータベース作成確認を問います。
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却する（Google Form を活用）。 筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-40-07

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
心理統計法	演習	堅田　弘行

授業の回数	時間数(単位数)	配当	
8 回	1 単位	3 セメスター	選択

☐ 実務経験

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
心理統計における基礎的な事項を学習し、卒業研究等で統計を効果的に活用することができる。	4

[授業全体の内容の概要]

主に、卒業研究において量的研究を検討している学生を対象に授業を行う。また高度な数学的理解や難解な数式の理解や暗記を求めず、分析手法を中心に実践しながら学習することを求める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

平均値の検定や分散分析などの仮説検定を用いて、実際に分析することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション／統計基礎の復習	統計基礎の内容を復習する（2 時間）
2) 相関と回帰	
3) 母集団と標本	
4) 検定の方法①（仮説検定の考え方／単純集計表とクロス集計の検定）	提示した課題の実施（1 時間）
5) 検定の方法②（平均値の検定、分散分析）	提示した課題の実施（1 時間）
6) 検定の方法③（比率の検定／相関係数の検定）	提示した課題の実施（1 時間）
7) 統計データの収集のための準備	質問項目の検討（2 時間）
8) 統計データの収集と分析	

[使用テキスト]

山内光哉，『心理・教育のための統計法〈第 3 版〉』，2015，サイエンス社.

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　　%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（ 100%）	収集したデータに関する分析をおこなったレポートによって評価をおこなう。
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

評価のポイントを掲示で示します。

[備考]

・Microsoft の表計算ソフト「Excel」がインストールされたパソコンがあることが望ましい。
・電卓機能のある端末や電卓があることが望ましい。
・「統計基礎」の GP が 2 以上あることが望ましい。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-L-40-04

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
表現技術Ⅲ	演習	加藤 友彦・長島 佳奈・増原 真緒

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター	卒業必修
☑ 実務経験	元保育者経験を活かし，保育における表現技術について伝えます。（増原）					

［授業の目的・ねらい］

子どもの豊かな心を育むために、絵本を題材に言語表現、音楽表現、造形表現、身体表現を総合した表現を構想し、構想にもとづいて製作し、発表したり鑑賞したりすることを通して表現技術を習得することを目的とする。4セメスターの「総合表現」につながる活動とする。

主に対応するＤＰ
1

［授業全体の内容の概要］

総合表現への足掛かりとなる表現活動に向けた準備を行うため、題材となる絵本を決定し、その絵本の世界を表現することのできるワークショップや表現について検討、準備行う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

絵本を題材に、子どもを対象とした表現活動を計画し、第8回終了時点で個別および担当部署ごとの成果・課題を明確化した上で、「総合表現」での取り組み計画を作成できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。【増原】 ・題材の検討（絵本の世界を表現できるワークショップ・子どもに向けた発表・参加型の遊び場等）の視点で内容を考え発表し合い、その結果から題材を決定する。 ・実施する活動の検討、決定 ・活動グループの選択（希望調査）	
2）構想・検討〈グループ活動〉【長島】 ・グループの決定 ・構想、計画書、準備物等についての書類を作成し、グループごとに方向性を定める。	
3）構想・検討〈グループ活動〉 事前活動①〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備にとりかかる。	
4）事前活動②〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。	
5）事前活動③〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。	
6）事前活動④〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。	
7）事前活動⑤〈グループ活動〉 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。	
8）事前活動⑥〈グループ活動〉／途中経過報告【加藤】 ・計画にもとづき、グループごとに準備を進める。 ・部署ごとに進行状況を発表し合い、方向性の確認を行う。 到達度の確認 〈グループ〉これまでの進行状況および残った課題と見通しの発表 〈 個　別 〉取り組み姿勢・自己課題と解決方法についてのレポート	

［使用テキスト］

なし

［参考文献］

なし

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認（　100%）	〈グループ〉授業終了時の進行状況および残った課題と見通しの発表（ 15% ）

	〈 個　別 〉取り組み姿勢・自己課題と解決方法についてのレポート（ 85% ）
②実技・作品発表等（　　%）	
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 学生個々の取り組み姿勢、状況および進行状況を鑑み、各教員からコメント・助言をする。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-40-58

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
総合表現	演習	加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈

授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	卒業必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子どもの豊かな心を育むために、絵本の世界をテーマに、保育内容「表現」「言葉」等の学修を踏まえた総合的な活動を構想し、製作あるいは制作をする。地域の子どもを招待して発表し、発表後には振り返りをし、活動全体を通して、保育・幼児教育における表現の意義を考察する。	5

[授業全体の内容の概要]

第 1 回～3 回で構想し、第 4 回～8 回までは製作・制作を行う。第 9 回～10 で準備をし、第 11～12 回で発表を行い、第 13 回で片付けをする。第 14 回で振り返りを行い、第 15 回でまとめを行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

テーマにもとづいた、子どもの発達や興味・関心に応じた総合的な活動を構想し、製作あるいは制作、発表、振り返り

を通して、子どもの表現活動を理解し、表し方や伝え方を習得し、学びを省察する力をつける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。構想①：各グループに分かれて話し合い、活動内容を決定する。【加藤】	事前にモチーフとなる絵本を告知するので、グループを編成し、役割分担を決め、活動内容について話し合っておく。(1～2 時間)
2) 構想②：各グループに分かれ、決定した活動内容にしたがい、準備をする。	次回の活動に向け、購入の必要な用具・材料の申告をする。（1 時間）
3) 構想③：各グループに分かれ製作・制作の準備を整える。	準備の中で不足する、あるいは変更の必要な用具・材料の申告をする。（1 時間）
4) 製作・制作①：構想にもとづき、各グループで活動する。	授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で製作・制作する。（1 時間～2 時間）
5) 製作・制作②：構想にもとづき、各グループで活動する。	
6) 製作・制作③：構想にもとづき、各グループで活動する。	
7) 製作・制作④：構想にもとづき、各グループで活動する。	
8) 製作・制作⑤：構想にもとづき、各グループで活動する。	
9) 準備①：前日の準備をする。	
10) 準備②：直前の準備をする。（2024 年 12 月 14 日 1 限目）	
11) 発表①：来場者に発表をする。（2024 年 12 月 14 日 2 限目）	
12) 発表②：学生同士で発表を鑑賞・参加しあう。（2024 年 12 月 14 日 3 限目）	
13) 片付け：会場の片づけをする。（2024 年 12 月 14 日 4 限目）	
14) 鑑賞：発表の動画を鑑賞し、各グループで振り返りをする。【加藤】	
15) 学習のまとめ：「総合表現」の学習を振り返り、レポートを作成し、保育・幼児教育における表現の意義を考察する。【加藤】	

[使用テキスト]

なし

[参考文献]

なし

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 75%）	授業内レポート
②実技・作品発表等（ 25%）	第 10～13 回の活動

【定期試験】

①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	

④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 発表の様子についてコメントする（第 14 回）。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-40-59

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
教育実習指導Ⅱ	実習	舟越　美幸

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	幼免必修
☑ 実務経験	元保育者の経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。					

［授業の目的・ねらい］

・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。
・保育の連続性の中から子どもの生活や遊びを理解し、保育実践に繋がる視点をもつ。
・実習報告書を作成し、学び合うことで幼稚園教育について理解を深める。

主に対応するＤＰ
5

［授業全体の内容の概要］

①　実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。
②　学んだ保育技術を参考に、指導案を作成し、実践する。
③　実習報告会で報告し、学び合うことで幼稚園教諭としての保育観・子ども観・障がい観を深める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、主体的な生活や学びが実現できる保育方法を考え、実践できる。
・幼児期に必要な「幼稚園教諭との信頼関係」や「環境を通しての教育」のあり方について説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1)　幼稚園実習ガイダンス ・幼稚園実習の流れ　・　実習の時期と課題　・　実習ファイル作成 ・　オリエンテーションの受け方と内容	・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと（2 時間） ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身に着けていくことを求めます。
2) 個と集団・保育の連続性を理解する記録の方法 ・日々の記録から子どもの姿と保育者の援助を理解するための記録のあり方について学ぶ。	
3) 子ども理解から始まる指導案 ・子どもを主体として尊重し、信頼関係を基盤とした実習指導案の作成方法について学ぶ。	・添削指導を受けながら、実習指導案を作成し、期日までに仕上げて下さい。個別に教材を用意し模擬保育を行う準備をしてください（5～6 時間）。
4) 指導案による実践①　プレゼンテーション（ゲストスピーカー…1G を担当） ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。	
5) 指導案による実践②　プレゼンテーション（ゲストスピーカー…1G を担当） ・実習指導案を立案し、模擬保育を行う。	
6) 最終確認・トラブルシューティング・報告書の書き方 ・実習の最終確認を行うと共に、報告書の書き方について学ぶ。	
7) 実習報告会　　プレゼンテーション ・エピソード記述方式を用いた実習報告書をグループで発表し合い、保育観・子ども観・障がい観について学び合う。	・グループのメンバーの実習報告書を事前に読み込み参加してください（1 時間）。
8) 実習報告会と振り返り　グループワーク ・環境構成に関する報告書をグループで発表し合い、保育者の意図と環境構成の関連性について学び合う。	

［使用テキスト］

・『実習ガイドブック』　大阪健康福祉短期大学・実習運営委員会

［参考文献］

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①　到達度の確認（　60%）	・保育記録内容（10%）・模擬保育振り返り内容（20%）・実習報告会振り返り内容（10%） ・環境構成の記録内容（20%）
②　実技・作品発表等（　40%）	・実習指導案の内容（20%）・模擬保育の内容（20%）

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ ・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりしてフィードバックを行う。	
［備考］・この科目を履修するためには、教育実習指導Ｉの単位を修得していなければならない。 ・この科目を履修するためには、幼稚園実習を履修見込でなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-64

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
幼稚園実習	実習	舟越　美幸

授業の回数　160　時間	時間数(単位数)　4　単位	配当　3　セメスター	幼免必修

☑ 実務経験	保育者として勤務していた経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・子どもの心身の発達に必要かつ十分な環境を整え、子どもの生活や遊びを援助する方法を身に付ける。 ・「見学・観察・参加・指導」における実践を通して、幼稚園教育のあり方について理解を深める。 ・実践を通し、保育者の専門性及び地域に貢献する社会人としてのあり方を学習する。	5

[授業全体の内容の概要]

① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。
② 子どもと関わることを通して、子ども一人ひとりの思いや願いに気づく。
③ 保育の環境と子どもの生活や遊びのつながりについて保育の連続性の中から理解する。
④ 観察、記録、指導及び自己評価について実践的に理解する。
⑤ 保育者の職務内容や職業倫理について理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について体験的に理解し、説明できる。
観察記録から実態を捉えた保育実践を行い、省察することで保育観・子ども観・障がい観への理解を深め、説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
① 幼稚園の社会的役割や機能について理解する。 ・幼稚園の沿革と保育理念を理解する。 ・学級編成や職員構成を理解する。 ・保育環境図や生活時程と保育を理解する。 ② 幼稚園教諭の職務内容や職業倫理について理解する。 ・保育者の指導、援助の方法を理解する。 ・保育者の関わりから意図や配慮を学び、自分自身の関わりに結び付ける。 ・職員連携について学び、職員の一人として場にふさわしい行動をする。 ③ 保育の連続性を意識し、観察や子どもとの関わりを通して子どもを理解する ・個々の子どもの思いや心の動きについて理解する。 ・子どもの生活や遊びについて理解する。 ・子どもの発達過程について理解する。 ④ 子どもの生活や遊びに応じた保育環境について理解する。 ・子ども一人一人やクラスの実態を理解する。 ・子どもの健康と安全への配慮について理解する。 ・子どもの姿を捉え、教材研究の視点を持つ。 ⑤ 観察 - 記録 - 指導及び自己評価について理解を深める。 ・実習日誌の記録から気づきを深め、考察する。 ・幼稚園教諭の姿を参考に生活の一部分の指導（登園時、食事時等）を経験する。 ・園やクラスの実態に応じて部分・全日指導案を作成し、準備を行う。 ・指導案に基づく実践を行い、事後に自己評価を行う。	・実習前に各年齢の発達過程を復習し、教材研究を行う必要があります。 ・実習前に各園でオリエンテーションを受け、「オリエンテーション記録」を訪問指導教員に提出してください。

[使用テキスト]

・「実習ガイドブック」大阪健康福祉短期大学・松江キャンパス　実習運営員会
・「幼稚園教育要領解説」　文部科学省　フレーベル社

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　40　%）	実習の事前指導（課題と取り組み 10%･身だしなみ 5%･オリエンテーション記録 10%）・事後指導（お礼状 5%・報告書 10%）
②実技・作品発表等（　60　%）	実習施設からの評価（評価の基準については教育実習指導Ⅱでお知らせします）

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	

②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ ・実習報告会で総まとめとしてコメントしたり、解説したりします。	
［備考］・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅰの単位を修得していなければならない。 ・この科目を履修するためには、教育実習指導Ⅱを履修見込みでなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-65

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
国語教育	講義	橋本祐治

授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	幼免必修

☑ 実務経験	元小学校教員の経験を活かし、子どもが言葉の力を獲得する段階性と連続性等について講義する。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
専門的知識と技能に基づき、子どもの発達を保障し、豊かな言葉の力をつけるために、幼児期から学齢期初期の言葉の発達や指導内容について理解し、保育者としての言葉の力を高める。	1

[授業全体の内容の概要]

国語教育の意義や国語科教育の構造と内容（特に小学校１年生）について、幼稚園教育要領における領域「言葉」を踏まえて、子どもが言葉の力を獲得していく段階性と連続性を理解する。小学校１年の国語教科書を使って調べ学習をすることによって、言語活動をとおして「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力」を育成することについて理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・生涯を通じた国語教育の意義を理解するとともに、俳句を詠み、鑑賞することをとおして言語感覚を磨く。
・小学校 1 年の国語教科書を使って、子どもたちが行う言語活動を想定して教材研究し、言語能力を獲得する過程を理解する。
・小学校１年入学当初の子どもたちに向けた紙芝居のシナリオを作成し、グループで発表する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1) 授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・幼児教育における「育みたい資質･能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」、領域「言葉」を振り返ることによって、人間が成長するための言葉の学びについて理解する。 ・俳句作りについて理解し、実際に作る。	・『幼稚園教育要領解説』p.50～73,213～32 を読む。(2 時間)
2) 国語教育の意義　その 1 ・前回作成した俳句数点の鑑賞(第 15 回まで)と実作(第 14 回まで)をする。 ・人間の言葉の特徴について理解する。	・五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句の取材をする。(30 分)ー以下「俳句の取材」
3) 国語教育の意義　その 2 ・言語文化と言語生活について理解する。	・俳句の取材(30 分)
4) 国語教育の意義　その 3 ・国語教育と国語科教育との関係､国語科教育の変遷について理解する。	・俳句の取材(30 分)
5) 国語科教育の構造 ・幼児教育における領域「言葉」のねらいを踏まえて、国語科教育の目標及び内容について理解する。	・俳句の取材(30 分) ・『小学校学習指導要領解説　国語編』(以下『解説』)第 2 章　国語科の目標及び内容 p.11～39 を読む。(2 時間)
6) 小学校入門期の言葉の学習　1〔知識及び技能〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「言葉の働きや使い方に関する事項」の「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「漢字」について調べることをとおして､教科目標(1)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.41～46 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
7) 小学校入門期の言葉の学習　1〔知識及び技能〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「言葉の働きや使い方に関する事項」の「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「音読、朗読」について調べることをとおして、教科目標(1)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.46～49 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)〃
8) 小学校入門期の言葉の学習　1〔知識及び技能〕に係る内容 ・小学校 1 年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「情報の取り扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」について調べることをとおして、教科目標(1)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.50～56 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
9) 小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内	・俳句の取材(15 分)

容 ・小学校１年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「A　話すこと・聞くこと」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・『解説』p.57～62 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
10)小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校１年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「B　書くこと」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.63～68 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
11)小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校１年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「C　読むこと(説明的な文章)」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.69～75 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
12)小学校入門期の言葉の学習 2〔思考力、判断力、表現力等〕に係る内容 ・小学校１年上巻の教科書を使ったグループワークにより、「C　読むこと(文学的な文章)」について調べることをとおして、教科目標(2)(3)を理解する。	・俳句の取材(15 分) ・『解説』p.69～75 及び『あたらしい 国語 一上』を読む。(1 時間)
13) 小学校入門期の言葉の学習　3「紙芝居をつくろう」 ・ここまでの学修の内容を踏まえ、子どもたちの発想や想像力を想定して、4 枚構成の絵から場面の様子や登場人物の言葉、ストーリーを個別に考える。(『新編 あたらしい 国語 一上』(貸出)p. 0～7 による)	・俳句の取材(15 分)
14) 小学校入門期の言葉の学習　3「紙芝居をつくろう」 ・個別に考えた場面の様子や登場人物の言葉、ストーリーをもとにグループで話し合い、紙芝居を完成させ、発表の練習をする。	・俳句の取材(15 分) ・『新編 あたらしい 国語 一上』(貸出)p.0～7 を使った紙芝居の脚本を考える。(2 時間)
15) 小学校入門期の言葉の学習　3「紙芝居をつくろう」 ・グループ毎に紙芝居を発表し、見合うことによって、子どもたちの言葉の力による発想や想像力について考える。	・紙芝居発表の練習をする。(30 分)

[使用テキスト]
文部科学省,『幼稚園教育要領解説』,2018,フレーベル館
秋田喜代美他,『あたらしい 国語 一上』,2023,東京書籍 平成 31 年検定版
文部科学省,『小学校学習指導要領解説　国語編』,2018,東洋館出版社

[参考文献]
全国大学国語教育学会編,『新たな時代の学びを創る　小学校国語科教育研究』,2019,東洋館出版社
小森茂他,『新編 あたらしい 国語 一上』,2019,東京書籍 平成 26 年検定版

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①　到達度の確認（ 50% ）	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えと課題を述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
②　実技・作品発表等（ 20% ）	・五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句を作る。(10%) ・子どもの発想や想像力を想定した紙芝居を、グループで協力して作成し発表する。(10%)

【定期試験】

①　筆　記　試　験（　　%）	
②　レ　ポ　ー　ト（ 30 %）	示された課題について、客観的な文章の書き方に沿って 2,000 字程度のレポートを作成する。
③　実　技　試　験（　　%）	
④　面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]
・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。
・俳句について授業内で解説したり、コメントしたりする。

・紙芝居の発表に対して授業内でコメントする。 ・レポート試験について、評価規準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。
［備考］ 各回の「学修のまとめ」はGoogle CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-75

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子ども家庭支援論	講義	髙橋　憲二

授業の回数	15　回	時間数(単位数)	2　単位	配当	3　セメスター	資格必修

☑ 実務経験	元島根県立大学短期大学部教員の経験を活かし、家庭支援の理論と実践について講義する

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子ども家庭支援の理論や実践について学び、説明することができる。 子どもと保護者の状況を理解し、子育てにやさしい保育者となる。 保護者とよりよい関係をつくることを理解し、子育てを支える保育者となる。	1+2

[授業全体の内容の概要]

本講義では、 子ども家族支援が必要とされる社会的背景と意義を概観した上で、 子ども家庭支援の構造と理念そしてソーシャルワークの理論をふまえ、効果的な支援のあり方や今後の課題について考える。 とくに、家庭支援と子育て支援双方の視点から、 保育者が行う家庭支援や地域の子育て支援の実践に着目し、 理論だけでなく、より具体的な支援方法についても検討を加える

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

１． 社会福祉における子ども家庭支援の意義や目的について理解し、説明することができる。
２． 子育てをめぐる現代的課題及び地域における子ども子育て支援施策について理解し、説明することができる。
３． 在宅子育て家庭や社会的養護を要する家庭への支援の実際を学び、家庭生活をめぐる課題を理解し、説明することができる。
４．子ども家庭支援の諸理論や支援方法について理解を深めつつ、それらを身につけ、家庭支援や地域の子育て支援において実践できる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1)　家庭支援の背景・意義・構造・理念・技術　リアクションペーパーの書き方の説明　　リアクションペーパーの提出	予習：教科書 2-16p（40 分）
2)　子どもと家庭　家族の機能・親になるプロセス・子どもの居場所づくり　　リアクションペーパーの提出	予習：教科書 18-33p（40 分）
3）保育者による家庭支援　家庭支援における保育者の役割　　家庭支援と保育者・保育指針などにおける家庭支援・保育者の姿勢と倫理 家庭支援の対象　　リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p34-42（40 分）
4）家庭支援の方法としての保育相談支援　　保育相談支援とは　　保育相談技術　　保育相談支援の実際　　日常保育・行事・環境を活用した相談支援　　追加資料：保育士の専門技術 リアクションペーパーの提出	予習：教科書 43-58（40 分）
5）特別なニーズを有する家庭への支援Ⅰ（対象家庭について　その支援体制　障がいのある子どもと保護者への支援） リアクションペーパーの提出	予習：教科書 60-65（40 分）
6）特別なニーズを有する家庭への支援Ⅱ　（虐待家庭・ひとり親家庭・外国籍の家庭への支援）　　追加資料：文章の書き方 小レポート課題：　親たちの戸惑い	予習：教科書 p66-71（40 分）
7）家庭への個別的支援　　家庭支援の展開　　援助計画の作成 評価と終結　　リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p72-83（40 分） 小レポート提出
8）在宅子育て家庭への支援　　在宅子育て家庭への支援と保育所等 地域の子育て支援拠点　　特別なニーズをもつ親子への支援 小レポート課題：教育保育者の戸惑い	予習：教科書 p84-103（40 分）
9）社会的養護を要する家庭への支援Ⅰ （家庭の特性と支援の姿勢　乳児院・児童養護施設　） リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p106-113（40 分） 小レポートの提出
10）社会的養護を要する家庭への支援Ⅱ （母子生活支援施設・障害児福祉事業・里親への支援） 小レポート課題：施設実習で感じたこと	予習：教科書 p114-121（40 分）

11）子ども家庭支援に関わる法・制度　　条約　法律　計画など リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p122-135（40 分） 小レポートの提出
12）子どもと家庭を支える機関と人 児童相談所・児童家庭支援センター・児童民生委員・子育て支援団体 事例紹介：子どもの居場所づくり（寺子屋と子ども食堂の活動） リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p136-169（40 分）
13）子どもと家庭を支援する事業 事業の類型　健康を守る　入所児童のニーズに応じた保育事業 多様なニーズに応じた保育事業　学童期の家庭支援サービス 特別なニーズを有する家庭を対象とした支援事業 相互扶助システムづくり グループワーク：リクレーションとは、アイスブレイクの実際	予習：教科書 170-185（40 分）
14）グループワーク：保育相談 コミュニケーション技術を学ぶ　聴くことのシナリオ 共感すること　傾聴とは ロールプレイ：相談支援	配布資料を読む（40 分）
15）グループワーク：障がいのある子どもの事例検討	予習：教科書 196-199（40 分）

［使用テキスト］

よくわかる家庭支援論　編者　橋本真紀・山縣文治　発行所　ミネルヴァ書房

［参考文献］

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認（　30%）	小レポート及びリアクションペーパー
②実技・作品発表等（　20%）	グループワーク（事例検討）

【定期試験】

①筆　記　試　験（　50%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］

リアクションペーパーに示された疑問点・質問などは次回の授業時に返答する

小レポートは提出後の次週授業時にレポート評価表を返却する

［備考］

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-18

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子どもの理解と援助	演習	堅田　弘行・増原　真緒 （オムニバス）

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	資格必修

☑ 実務経験	保育現場における実践経験をもとに子ども理解を踏まえた援助や保護者支援の方法について実践的に伝えます。（増原）

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
・子どもを理解するための視点を理解し、保育士の援助や態度の基本について理解する。 ・保育者と保護者および保育者同士の協同的な姿勢について理解する。	1＋2

［授業全体の内容の概要］

・エピソード記述や事例から子ども理解の視点を深めるとともに，保護者および同僚との協同的姿勢と関わりについてロールプレイを通して理解する。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・子ども理解を深める視点について知見を深め、保護者や職員間の連携・協同の意義について理解する。
・子ども理解に基づく援助の在り方について考察することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）「子どもを理解する」とは何か。【堅田】	
2）子どもへの共感的理解とモノの可能性【堅田】	
3）子どもを理解するための視点①【増原】 集団生活における子どもの経験や葛藤･つまずきについてグループワークを通して理解を深める。	
4）子どもを理解するための視点①【増原】 ・テキストから「“支援者”としての保育者のゆらぎ」について考え，保育における援助の観点について検討する。 ・実習を思い起こし，実際に観察した子どもの生活や遊びの様子から保育者の関わりの意図や子どもの思いを考察し，グループワークを通して子ども理解の視点を深める。	※1 年次に「幼児と言葉」の授業で使用したテキスト『子育てとケアの原理』を必ず持参すること。
5）保護者支援と情報共有【増原】 事例検討を通して保護者対応の疑似体験を行う。	
6）職員間連携と対話【増原】 職員同士の協同的な姿勢と連携について事例検討を通して考えを深める。	
7）「子ども理解に基づく援助」とは何か。【堅田】	
8）これからの保育者の援助の在り方。【堅田】 ～はじめの 100 か月の育ちビジョンから見る保育者の役割～	

［使用テキスト］

望月雅和（2022）『子育てとケアの原理〔新版〕』北樹出版　（※第 4 回講義のみ使用）
その他，適宜資料を配布する。

［参考文献］

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】	
①到達度の確認（　50%）	第 3～6 回で取り組むワークシートの提出と記述内容から，考えの深まりを評価する(増原)。
②実技・作品発表等（　　%）	
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　50%）	「子ども理解に基づく援助の在り方」に関するレポート課題によって評価する。
③実　技　試　験（　　%）	

④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 　定期試験実施後に評価のポイントを掲示する。	
［備考］ 1 年次に履修した「発達心理学」や「子ども家庭支援の心理学」をはじめとした「発達」に関連する科目を十分に復習し、子どもの発達過程を理解した上で授業に臨んでください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-25

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子どもの健康と安全	演習	前林　英貴

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	4　セメスター	資格必修

☑ 実務経験	大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子どもの疾病や事故の特徴とその予防についての基礎知識をもとに適切に対応するための技術を習得し、保健活動の計画及び評価、子どもの心とからだの健康問題や地域保健活動等について理解を深める。	1+2

[授業全体の内容の概要]

子どもの保健で学習した知識や理論を踏まえ、実際の保育現場や保健活動の場において活用するための基礎的知識と技術を解説する。また、乳幼児の基本的な健康及び成長発達の観察方法と評価方法についても解説する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価することができる
2. 子どもの健康や心身の発育・発達を促す保健活動や環境について説明することができる
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対処方法やアセスメント方法を実施することができる
4. 保育現場における救急時の対応や事故防止、安全管理について説明することができる

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）保育における保健活動（1）　保健計画と評価、安全・衛生管理	
2）保育における保健活動（2）　健康診断、身体計測と発達評価	
3）保育における保健活動（3）　沐浴、保清、スキンケア、口腔ケア	
4）保育における保健活動（4）　バイタルサインの測定と健康状態の観察・評価	
5）子どもの疾病とその対応（1）　感染症の予防と対応	
6）子どもの疾病とその対応（2）　保育における看護、薬の投与方法	
7）子どもの事故防止と応急処置(1)　子どもの応急処置における対応(事故防止、救急への要請)	
8）子どもの事故防止と応急処置(2)　子どもの応急処置における対応(心肺蘇生法と AED)	

[使用テキスト]

なし

[参考文献]

「これならわかる！子どもの保健演習ノート　改訂第３版」榊原　洋一　診断と治療社

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　　%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（100%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

毎授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。

[備考]

演習が中心となる科目のため、主体的に技術習得できるよう心掛ける。動きやすく清潔な服装、身だしなみ（髪型、服装、化粧、爪等）に配慮して参加すること。備品の取り扱いに注意し、汚したり破損しないようにする。準備、洗浄、後片付けは各自責任を持って行うこと。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

14-12-41

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
社会的養護Ⅱ	演習	堅田　弘行

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター	資格必修

☑ 実務経験	元児童自立支援施設児童自立支援員(嘱託)としての実務経験を活かし、社会的養護施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
「子どもの最善の利益のために」と「すべての子どもを社会全体で育む」という社会的養護の基本理念の理解のもと、事例を通して社会的養護施設で生活する児童の処遇や職員の児童に対する適切なアプローチについて考える力を身に付ける。	1

[授業全体の内容の概要]

学生自身の「学びの過程」を追跡するために学習日誌を作成する。事例を通したグループワークを中心に講義・演習を行う。各回に予習課題と授業終了時課題を課し、期限内の提出を求める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 児童福祉施設における具体的な養護の方法を、理論的かつ法的根拠に基づいて説明できる。
2. 事例をもとにアセスメントを行い、支援計画を立案することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) アドミッションケアからアフターケアまでの流れを概観し、実際の支援に至るまでの過程を学ぶ。	予習課題：社会的養護におけるケアマネジメントの意義について考える。(1時間)
2) 支援方針の決定までの流れを確認する。ケース理解のための手法としてジェノグラムとエコマップを作成する。	予習課題：社会的養護施設を一つ挙げ、関連する他機関や地域資源を調べる。(0.5時間)
3) 援助方針を立てる際の留意点について確認する。事例をもとに長期方針・短期方針に基づく支援内容を検討する。（グループワーク）	予習課題：テキスト(p96)の事例を読み、「ケアにおける明確な目標設定と具体的な計画設計」の意義について考察する。(1時間)
4) インケアを中心に養護の具体的方法を学ぶ。	予習課題：社会的養護施設における日課や規則の意義について考察する。(1時間)
5) 事例から子どもの状態像、現在に至る背景要因について理解する。	予習課題：これまでの学習内容を復習し、不明な点や曖昧な点の解消に努める。(1時間)
6) 職員にとって把握しにくい事柄、見逃しやすい症状を整理する。児童福祉施設における性暴力について視聴覚教材をもとに話し合う。	予習課題：乳幼児期から児童期にかけて見られる防衛機制について調べる。(0.5時間)
7) 愛着形成の重要性、施設入所や里親委託による子どもへの影響を考える。	予習課題：テキスト（p176～）を読み、「社会的養護における愛着の重要性」について考察する。(1時間)
8) 事例から援助方針を策定する。（グループワーク）	予習課題：事例資料をもとに、対象児の課題を整理する。(1.5時間)

[使用テキスト]

喜多一憲監修，『みらい×子供の福祉シリーズ第2版　社会的養護Ⅱ』，2024，みらい.

[参考文献]

田中康雄，『児童生活臨床と社会的養護』，2012，金剛出版.
尾崎新・福田俊子・原田和幸(訳)，『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法』，2008，誠信書房.
上田敏，『ICFの理解と活用』，2011，きょうされん.

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　40%）	各授業回翌日までに提出された学習日誌によって評価する。
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　60%）	課題事例における支援の内容と方法を、授業で確認した支援上の留意点を踏まえ事実に基づいて提案することができるかどうかで評価する。
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	

④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 個別面談によって評価のポイントを伝える。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-50

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子育て支援演習	演習	杠　佳子

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	4　セメスター	資格必修

☑　実務経験	保育士・主任・所長として従事し、市・県の代表・教育事務所の職員と行政機関での経験もある。 乳幼児の児童の発達や特性を演習等通して指導する事で保育士の専門性について講義する。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
＊保育士の行う保育の専門性を背景とした子ども・保護者・地域に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援等の必要性について、その特性と展開を具体的に理解する。	1＋2

[授業全体の内容の概要]

＊保育士、保育教諭の行う子育て支援、子育ての支援について様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①　子育て支援の意義を講義・演習等を学び理解する。

②　保育士、保育教諭の行う子育て支援の特性や必要性について理解する。

③　自己理解を深める事ができる。各年齢における人との関わり、保護者・地域との関わりについて説明できる。

④　子育て支援での関わりの重要性を説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1)　保育所保育指針・幼保連携型認定こども園保育要領解説本に基づき 保育所、認定こども園における保育の基本について理解を深める。	・「子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習」 ・「保育所保育指針解説本」 ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本」 3 冊を持参すること。 ○事前に該当箇所を読んでおくこと。 （30 分程度）
2) 保育指針解説本に基づき子育て支援、幼保連携型認定こども園保育要領に基づき子育ての支援について。 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきや多方面な理解する。 子ども・保育者が多様な他者と関わる機会や場の提供	・「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園保育要領」の持参。 ○「子育て支援・子育ての支援」の項目を事前に読んでおくこと。 （30 分程度）
3) 保育士の行う子育て支援を行うことの意義　（保育所の社会的役割と責任） ①　入所する子どもの保護者への支援（家庭とのパートナーシップと保護者支援） ②　地域社会との交流と連携（顔のみえる連携と地域社会の貢献） ②　　職員研修（職員の共通理解と共同・職員研修の重要性）	・「毎回、子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習」の持参。 ・3 コマ～７コマまでは 本・DVD・絵本などを通しての講義を実施するので､講義内容を理解し発表･記録用紙を通して復習・予習をしておくこと。（30 分程度） ・提出締め切りは守る。 ・読みやすい字を書く。 ・発表する時の態度、誰にでもわかるように話す。
4) 子どもを理解しよう　（グループワーク） ①　子どもの理解の意味　　②　子どもの理解の方法 ③　エピソードを通しての理解	
5) 保護者を理解しよう　（グループワーク） ①　保護者とは　　②　保護者の思い　③　保護者を力づける支援とは ④　エピソードを通しての理解	
6) 地域のことを理解しよう　（グループワーク） ①　地域資源を知ろう　　②　保育者養成校と専門機関･関係機関との連携 ③　エピソードを通しての理解	
7) 子育て支援演習まとめ①　（グループワーク）　（プレゼンテーション） 子ども理解・保護者理解・地域理解について	・おたより作成事前準備について理解する。（30 分程度）
8) 子育て支援のまとめ② 大阪健康福祉短期大学在籍の思い出作り（おたより作成）	・講義内に完成しなかった場合後日提出可とするが、減点となる。

［使用テキスト］ 子ども・保護者・学生が共に育つ保育・子育て支援演習　　萌文書林 保育所保育指針解説本　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本	
［参考文献］ 講義内容においてプリントの配布	
［試験の方法と学修成果の評価基準］	
【平常試験】	
①　到達度の確認（ 65 %）	・意味の理解　・文章化の理解　・丁寧な記録書　・疑問点の質問 ・持参物、提出締め切りを守る。
②　実技・作品発表等（ 35 %）	・思いをまとめ文章にする。・カット等いれて楽しいおたより作成。 ・丁寧な文章、きれいなイラスト目指す。（ペン・色鉛筆・水性ペン・写真等） ・思い出作りと今後の目標を持つ。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 提出された課題について、講義内で解説したりコメントしたりしてフィードバックを行う。	
［備考］ DVD 使用　（保育所保育指針を映像に！） （保育所は、命育み、学ぶ意欲を育てます）	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-51

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
教育制度論	講義	川内 紀世美

授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター	幼免必修/資格必修
☐ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・基礎知識として、教育制度に係る歴史・法制度等を知り、幼稚園教諭の社会的役割を理解する。 ・学校の制度、教職員の制度、教育行政の制度等の学校教育にかかわる制度を理解し、制度を活用するための仕組み、組織を知る。 ・教育基本法、学校教育法等の教育関連の法規を踏まえ、幼児教育の制度上の枠組みを知る。 以上の学んだ知識に基づいて幼児教育の実践ができるようになる。	3

[授業全体の内容の概要]

・教育制度について解説し、日本の教育を巡る動向を図解や統計資料を用いて説明する。
・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園など、学校、保育施設の制度上の位置づけについて解説する。
・特別支援教育とのかかわりで視覚障がい当事者の講演を実施。（外部講師による）

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・幼稚園並びに幼保連携型認定こども園の制度上の位置付けを理解し、説明できる。
・幼稚園教諭及び保育教諭の役割について、学んだ知識に基づいて説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）教育制度で学ぶ意義 幼稚園、保育所制度の歴史。教育制度の基本原理。	テキスト(①p1-11)を読み、予習すること。(30分間)
2）学校の制度 学校の定義と種類。学校の起源と学校系統。	テキスト(①p12-26)を読み、予習・復習すること。 小テストの学習をすること。(1時間)
3）教職員の制度 教職員の種類と職務。教諭等による充当職。教師の義務（服務）。	テキスト(①p27-38)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1時間)
4）教員養成の制度・教員研修の制度 教員養成の理念と教員免許状。教員研修。	テキスト(①p39-58)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1時間)
5）教育行政の制度・教員の福利厚生制度 文部科学省。中央教育行政。教育委員会。教員の働き方。	テキスト(①p59-81)を読み、復習すること。(1時間)
6）子ども・子育てにかかわる各種事業 特別支援教育の学校制度にかかわって、視覚障がい当事者の講演を実施。（外部講師招聘）	研修時の配布資料を読み、復習すること。 小テストの学習をすること。(1時間)
7）学校経営の制度・学校給食の制度・教科書の制度・危機管理の制度 学校組織マネジメント。評価システム。学校給食と「食育」。 教科書制度の特徴。学校安全の考え方。	テキスト(①p82-145)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。(1時間)
8）奨学金の制度・学校関係者による学校支援の制度・入試制度 奨学金制度の法的枠組み。学校と地域の連携・協働。大学入学者選抜制度。	テキスト(①p146-192)を読み、予習・復習すること。小テストの学習をすること。 (1時間)

[使用テキスト]

① 髙妻紳二郎 編著『新・教育制度論［第2版］』2023年、ミネルヴァ書房。
② 渡部昭男著『改訂新版　障がいのある子の就学・進学ガイドブック』2022年、日本標準。

[参考文献]

① 全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2024年版』2024年8月発売予定、ちいさいなかま社。
② 汐見稔幸ほか著『日本の保育の歴史：子ども観と保育の歴史150年』2017年、萌文書林。

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

① 到達度の確認（ 14 %）	授業時間内実施テスト及び授業後提出のワークシートで確認。
② 実技・作品発表等（ %）	

【定期試験】

① 筆 記 試 験（ 86 %）	
② レ ポ ー ト（ %）	
③ 実 技 試 験（ %）	
④ 面 接 試 験（ %）	
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］
・適時小テストを実施し、かつ、グループ討議を行う。
・小テストの代わりに、ワークシート課題の場合がある。

［備考］
・テキスト『改訂新版　障がいのある子の就学・進学ガイドブック』は、授業時間内に関連箇所を指示して使用する。
・第 6 回の「あいサポーター研修」は、第 1 回～第 5 回、第 7 回、第 8 回のいずれかに変更する場合がある。
「あいサポートメッセンジャー」は松江市社会福祉協議会の講師派遣による。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-14

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
幼児理解	演習	平野　美緒

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	幼免必修／資格必修
☑ 実務経験	・医療、教育、福祉領域における心理職としての経験を生かし、具体的な実践例を通して講義を行う。					

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
生活や遊びの実態に即した子どもの発達や学び、またその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための方法について理解し、具体的な対応・支援を説明できるようになる。	1+2

［授業全体の内容の概要］

保育現場の具体的な事例に基づき、子どもの発達の特徴を理解し、子ども理解の視点と方法をテーマに取り上げる。また、家庭と連携した幼児理解を行うため、保護者が抱えている子どもの育ちに対する思いを理解し、それを共有しあう方法について演習を行う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・子ども理解についての知識や基礎的態度を理解し、実践できる。
・子ども理解の方法を具体的に理解でき、実践できる。
・子ども理解に基づく保育者の援助や態度の基本を身に付ける。
・子どもを取り巻く環境について捉え、保護者への基礎的な対応方法について理解し、説明できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）保育における子ども理解の意義	
2）子ども理解を深めるための保育者の基礎的態度や姿勢	
3）子ども理解における発達的観点	
4）子ども理解の視点① 個と集団の関係の理解について、事例をもとにグループディカッションを行う。	
5）子ども理解の視点② 仲間関係と葛藤について、事例をもとにグループディスカッションを行う。	第 1～4 講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。（30 分程度）
6）子ども理解の方法① 観察・対話・検査	
7）子ども理解の方法② 保育カンファレンス	
8）保護者理解と協働 ・これまでの学習のまとめと振り返り ・到達度確認テストの実施	第 5～7 講の講義で扱ったテーマについて小レポートの作成。（30 分程度）

［使用テキスト］

無藤隆他（編著）『子どもの理解と援助～育ち・学びをとらえて支える』光生館

［参考文献］

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認（ 100%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］

課題について、第 8 回講義時に解説し、フィードバックを行う。

［備考］

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-24

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
幼児と人間関係	演習	藤井　香里

授業の回数	時間数(単位数)	配当	幼免必修／資格必修
8　回	1　単位	3　セメスター	

☐ 実務経験

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
乳幼児期の人間関係における理論や重要な育ちの要素について、学び理解することを目的とする。	1

[授業全体の内容の概要]

人間関係における基礎的な理論、各年齢における発達と育ってほしい姿をもとに、人との関わりについて講義やワークを通して学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

乳幼児期の人間関係に影響を与える現代の社会的要因について理解できる。

他者との関わりと集団との関わりの中で、重要な育ちの要素や人と関わる力が育っていく過程を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）乳幼児を取り巻く現代社会と人間関係	
2）乳幼児期の人間関係の基盤　愛着理論を中心に	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
3）遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
4）幼児期における自立心の育ち～自我の芽生え・自己への肯定感	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
5）幼児期における協同性の育ち	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
6）幼児期における道徳性・規範意識の芽生えと育ち	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
7）幼児期の人間関係の広がり　家庭・園生活・地域社会とのつながり	指定した教科書のページに目を通しておく（15 分程度）
8）幼児期に育みたい資質・能力と人間関係　学童期以降へのつながり	学んだ内容を総復習しておく（15 分程度）

[使用テキスト]

演習保育内容　人間関係　基礎的事項の理解と指導法　2019　建帛社

幼稚園教育要領　文部科学省

[参考文献]

なし

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　　%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（ 100%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

試験終了後、正答を開示する

[備考]

なし

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-36

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育内容（環境）	授業の種類（講義･演習･実技･実習） 演習	授業担当者 高橋 泰道・舟越 美幸・加藤 友彦

授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	幼免必修／資格必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる。	1

[授業全体の内容の概要]

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」を基に、子どもと人・自然とのかかわりを理解させ、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶことができるようにする。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶことができるようにする。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

(1)日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。

(2)各年齢段階の設定保育や自由遊びの中での「環境」に関わる指導計画を立案できる。

(3)小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる指導計画を立案できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 保育内容における「環境」・領域「環境」のねらい、内容、取り扱い（ディスカッション）（高橋） ・子どもの「環境と関わる力」の理解と発達を支えているもの、身近な自然・生き物・文字や記号・数量と形・園内外の行事について概要を理解する。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
2) 乳幼児期の探索意欲と好奇心を促す保育（ディスカッション）（高橋） ・子どもと人・自然とのかかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
3) 子どもと自然遊び（１）実際の様子（ディスカッション）（高橋） ・季節の特徴を生かした自然物を活用した保育から気づいたことについて話し合い、共有する。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
4) 子どもと自然遊び（２）教材研究（ディスカッション）（高橋） ・季節の特徴を生かした自然物を活用した保育について考える。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
5) 子どもの数量理解と保育教材研究（ディスカッション）（高橋） ・身近な文字や記号・数量と形を生かした保育から気づいたことについて話し合い、共有する。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
6) 小学校教育への連続性をふまえた「環境」の位置づけ（グループワーク）（高橋） ・小学校教育への連続性をふまえた「環境」に関わる保育のあり方について考える。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
7) 教材研究と指導案作り（グループワーク）（舟越） ・身近な自然や素材を使った遊びを生かした指導案を作成する。	テキストや資料を見て，学習内容を理解しておく。(1 時間)
8) 指導案の発表（グループワーク）（舟越） ・グループで作成した指導案を発表し合い、話し合う。 ・話し合いを基に指導案を修正し、まとめる。	指導案を完成させる。(1 時間)

[使用テキスト] 上中　修編（2018）『保育実践に生かす保育内容「環境」（第２版）』教育情報出版

[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 20 %）	授業内で課した振り返りシートの提出とその内容で評価をします。
②実技・作品発表等（ 40 %）	授業内で課した課題の提出物とその内容で評価をします。

【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（ 40 %）	領域「環境」について、子どもと人・自然とのかかわりについての理解や、「環境」に関わる保育のあり方についての理解度等について評価します。
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]レポート課題について、そのポイントを授業後に解説する。	
[備考]質問，相談等ある場合には，GoogleClassroom で連絡する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-41

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育内容（人間関係）	授業の種類（講義･演習･実技･実習） 演習	授業担当者 藤井　香里

授業の回数　8　回	時間数(単位数)　1　単位	配当　3　セメスター	幼免必修／資格必修
☐ 実務経験			

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
主にワークを通して、自己を見つめ、幼児の人と関わる力を育てるための実践的な能力を養うことをねらいとする。	1

[授業全体の内容の概要]

子どもにとっての「人間関係」の意味と自我形成、生活との関わり、遊びや集団との関わり、人との関わりと保育者の指導・援助などの事項について、事例を手がかりに検討・考察する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

自らがグループ討議やワークに積極的に取り組むことで人間関係の重要性を理解できる。

子ども一人一人を大切にしながら、子ども集団の中で人と関わる力を育てる保育者の役割について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション：ワークを通して自己を知ろう	
2）「生きる力」を育む人との関わり　幼稚園教育要領の理解	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
3）幼児期の発達と人との関わり　自我の芽生え、自己主張と自己抑制、社会性・道徳性について	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
4）遊びの中で育む人間関係①　パーテンの遊びの発達段階、遊びと発達・仲間関係、触れ合うことの喜びと楽しさ	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
5）遊びの中で育む人間関係②　葛藤・友だちとの仲直りを通しての人間関係の深まり､保育者の望ましい援助とは	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
6）人間関係の広がり　園、家庭、地域の人々との交流の意義	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
7）人間関係の実践（グループ活動）①人と関わる力を育てる保育指導案の作成	ワークにおける課題を振り返っておく（10 分程度）
8）人間関係の実践（グループ活動）②模擬保育実践とディスカッション	

[使用テキスト]

演習保育内容　人間関係　基礎的事項の理解と指導法　2019　建帛社

幼稚園教育要領　文部科学省

[参考文献]

なし

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①　到達度の確認（　100%）	ワークにおける提出物をもって評価する
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

最終講義日にまとめの解説を行う
［備考］ なし

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-42

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 保育内容（健康）	授業の種類（講義･演習･実技･実習） 演習	授業担当者 中谷　昌弘

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター	幼免必修／資格必修
☑ 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。					

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
保育内容領域「健康」におけるねらいや内容を理解し、乳幼児が心身ともに健やかに成長するための指導方法や援助を導き出すことができる。	1

[授業全体の内容の概要]

保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、子ども自ら多様な活動に意欲的に取り組み、健康で安全な生活をつくり出し、生活を営む力を身につけていく保育・教育のあり方を学ぶ。授業では模擬保育とその振り返りを通して保育を構想する方法を身に付ける。また、模擬保育で必要な指導案作成や保育指導で有効な情報機器及び教材の活用法も理解し､授業内のみならず教育実習や就職後を見据えた活用の仕方について理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

（1）保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」についてのねらい及び内容を理解し、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を修得することができる。

（2）子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「健康」について具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 領域「健康」のねらいと内容理解、子どもの遊び、安全管理と安全教育	
2) 領域「健康」における模擬保育の題材設定と保育指導案の作成	
3) 運動遊びの理論と指導法①(模擬保育を含む)	
4) 運動遊びの理論と指導法②(模擬保育を含む)	
5) 運動遊びの実践と指導援助の検討①(模擬保育を含む)	
6) 運動遊びの実践と指導援助の検討②(模擬保育を含む)	
7) 運動遊びの実践と指導援助の検討③(模擬保育を含む)	
8) 模擬保育の振り返り、子どもの健康を取り巻く現状と課題～まとめ	

[使用テキスト]

・文部科学省「幼稚園教育要領」
・厚生労働省「保育所保育指針」
・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

[参考文献]

必要に応じてプリントなどを配布

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

① 到達度の確認（　%）	
② 実技・作品発表等（　%）	

【定期試験】

① 筆記試験（　%）	
② レポート（50%）	指導案の作成
③ 実技試験（50%）	模擬保育の実践
④ 面接試験（　%）	
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

・模擬保育の実践後、全体でディスカッションを行う。

[備考]

・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。
・集中講義　2024 年 8 月 27.28.29.30(各日 2 コマ)

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-43

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育･教職実践演習	演習	橋本　祐治・舟越　美幸・川内　紀世美

授業の回数	15　回	時間数(単位数)	2　単位	配当	4　セメスター	幼免必修/資格必修

☑ 実務経験	・元小学校教員（橋本）・保育士（舟越）の経験を活かし、具体的な事例を通して保育観や教育観の深化と実践力向上に資する演習にする。

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
自らの保育観や教育観を深化させ、実践力を高めるために、これまでの学修内容や各実習を振り返り、保育・教育・子育て支援の実践に必要な知識や技能について有機的に統合する中で、自らの課題や目標を明確にし、目標達成に向けて努力する。	5

［授業全体の内容の概要］

授業は複数の教員で行う。これまでの全ての授業で学んだことをもとに、自らが保育者として子どもと向き合うための実践的な知識や保育技術の統合を目指し、テキストを活用した PC によるプレゼンテーションやディスカッション等を通じて、保育実践力の基礎を養う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・2 年間の学びを通して、自らの使命感や責任感、教育的愛情等の資質を確認し、保育者としての自己課題が発見できる。
・保育・教育課題や保育・教育関係機関等の連携などの、保育・教育に係る社会状況を把握し、自らの課題を発見する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）授業科目全体の概要を知り、見通しを持つ。 ・保育に関する疑問や自己課題をまとめる。	・1～3 セメスターの履修カルテを作成する。(各セメスター成績発表後に 3 時間)
2）保育者への歩みと足跡　その 1 ・「保育者を目指す私」と「思い描く保育者像」について考え、グループや全体で交流する。	・テキスト第 1 章「保育者への歩みと足跡」を読む。(1 時間)
3）保育者への歩みと足跡　その 2 ・理想の保育者像や保育者になることへの不安について考え、グループや全体で交流する。	・テキスト第 1 章「保育者への歩みと足跡」を読む。(30 分)
4）保育者への歩みと足跡　その 3 ・保育者に求められる資質･専門性について考え、グループや全体で交流する。	・ワークシート「履修カルテによる振り返り」を記述する。(2 時間)
5）子ども理解の方法と実際 ・保育における子ども理解の方法と実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	・授業担当者の助言を得ながら、グループの担当テーマについて学修し、発表の準備をする。（4 時間） ・次回の学修テーマについて、テキストの該当章を読む。(1 時間)
6）気になる子どもの行動の理解と対応 ・気になる子どもの行動を理解し、一人一人とかかわるために、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
7）教育課程及び全体的な計画を考える ・広義・狭義のカリキュラムの理解とマネジメントについて、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
8）保育内容と保育方法の研究 ・子ども一人一人の発達に応じ、その主体性が発揮される保育内容と方法について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
9）協同的な学びと育ちへ ・協同的な学びとその実際について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
10)保育の振り返り ・保育実践を振り返る意義とその方法について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃

11)保護者及び地域との関係づくり ・保護者や地域、関係機関との協働と、保育者同士の協働について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
12)保幼小の接続 ・保幼小の接続やその課題、接続期カリキュラム等について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
13)園の安全管理 ・園の安全管理の考え方や内容について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
14)保育者の専門性 ・保育者の専門性と成長、倫理について、グループ発表に基づくディスカッション等によって理解を深める。	〃
15)自分の保育者像を目指して ・保育者像を持つことの意味や保育者像を形成する視点について学び、自らの保育者像を明確にする。	〃

[使用テキスト]

小櫃智子・矢藤誠慈郎編,『改訂 2 版　保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み』,2023,わかば社

[参考文献]

秋田喜代美,『保育の心もち 2.0』,2021,ひかりのくに、ほか 26 冊－初回授業において一覧表を配付する。

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①　到達度の確認（ 80 %）	・授業内容を自らの視点でまとめ、考えと課題を述べる。(各回「学修のまとめ」提出)
②　実技・作品発表等（ 20 %）	・グループの発表担当テーマについて、協力して資料を作成し発表する。

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］

・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。

・グループ発表については、「発表計画及び評価票」によって評価言と評価点を返却する。

・グループ発表やディスカッションの様子について、その都度授業内で解説したり、コメントしたりする。

［備考］

各回の「学修のまとめ」は Google CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-74

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育・教育相談演習	演習	平野　美緒

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	幼免必修／選択必修
☑ 実務経験	・医療、教育、福祉領域における心理職としての経験を生かし、具体的な実践例を通して講義を行う。					

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子どもの発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身に付け、実践できる。	1+2

[授業全体の内容の概要]

保育・教育相談に関する基礎的な心理学的知識及び技能に関する講義内容を取り扱う。また、相談援助の技法については、ロールプレイ等を通して授業を進める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育・教育相談の意義と課題を理解し、説明できるようになる。

・保育・教育相談を進める際に必要な基礎的な知識（カウンセリングの意義、理論、技法を含む）を理解し、説明できるようになる。

・子どもや保護者をとりまく多様な課題に対して、専門的な知識に基づいて多面的に把握し、支援が実践できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）保育・教育相談の意義と役割	
2）保育・教育相談に関わる心理学的基礎的理論	
3）子どもの発達と臨床（１） 愛着と対人関係の発達	
4）子どもの発達と臨床（２） 発達上の課題と不適応	
5）保育・教育相談の技法（１） カウンセリングの基礎理論及び技能についてロールプレイを通して学ぶ。	第 1～4 講の講義内容についての小レポートを作成する。（30 分程度）
6）保育・教育相談の技法（２） 保護者支援についてロールプレイを通して学ぶ。	
7）保育・教育場面での相談体制や他職種・他機関との連携	
8）これまでの学習のまとめと振り返り 到達度確認テストの実施	第 5～7 講の講義内容についての小レポートを作成する。（30 分程度）

[使用テキスト]

石井正一郎、藤井秦（編著）『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 100%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

課題について、第 8 回講義時に解説し、フィードバックを行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-29

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
教育方法論	講義	堅田 弘行・小山 優子 （オムニバス）

授業の回数	時間数(単位数)	配当	幼免必修／選択必修
15 回	2 単位	4 セメスター	

□ 実務経験

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
幼稚園教育を通して育てたい幼児の資質・能力と幼児期の終わりまでに育てたい力を理解し、その力を育てるための教育方法を学修する。また、幼稚園で行なわれる教育実践を具体的に知り、指導と評価の方法に役立てることを目標とする。	1

[授業全体の内容の概要]

子どもと教師をつなぐ具体的な手立てとして、どのような方法があり、その方法が生み出されるにはどのような歴史的変遷、あるいは思想的な背景があるのかを解説しながら、教育方法とは何かについて考える。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

(1)子どもを主体とした教育方法の原理を理解し、幼児への指導法について実践事例を通して具体的に理解する。
(2)学校教育における情報機器の活用状況から、幼児期にふさわしい教育方法を考える。
(3)個別理解や学級経営などの子どもの育ちを支える指導方法や評価方法を理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 幼児期の教育の目的と目標、幼児の発達特性の理解【堅田】	
2) 「環境を通して行なう教育」、教育方法と保育形態【堅田】	
3) 遊びと生活を通した保育の実際【堅田】	
4) 小学校就業前までの発達課題と幼児に育みたい資質・能力【堅田】	
5) 幼児の発達に合わせた遊び【堅田】	
6) 生活の場でのグループ・集団活動、当番活動や行事などにおける教育方法【堅田】	
7) 保育における個別理解と集団理解【堅田】	
8) 幼児への指導・援助の具体的方法【堅田】	
9) 幼児の協同的な学びと実践【堅田】	
10) 幼児教育と小学校教育との連携【堅田】	
11) 幼児教育における情報機器の活用と課題【小山】	
12) 教育方法上の配慮事項と指導計画の作成【小山】	
13) 幼児理解と保育の記録・保育の評価【小山】	
14) 保育実践研究と保育カンファレンス【小山】	
15) 指導者としての資質の向上【小山】	(事後学習)第11回～15回の授業中に視聴したDVDについて、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する(約30分)

[使用テキスト]

北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 2010 年
『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』　チャイルド本社

[参考文献]

参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　　%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　60%）	筆記による試験をおこなう（堅田）。
②レ　ポ　ー　ト（　40%）	授業終了後に期日をもうけ、指定された場所やレポートを提出する（小山）。
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-10-52

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
地域福祉論	講義	余村　望

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	4　セメスター	選択必修
☑ 実務経験	元知的障害者援護施設職員の経験も踏まえて地域にあるべき共に創る福祉の姿を伝えます。					

［授業の目的・ねらい］

地域福祉は、住民が主体となり、自ら参加して行う社会福祉実践である。本授業では、地域福祉の社会的意味、理念と実践展開及びその方法論等について学び、福祉専門職として自らがその主体者として実践できることを目的とする。

主に対応するＤＰ
3＋4

［授業全体の内容の概要］

地域福祉が生まれるに至った社会背景、その実践のための地域福祉計画、推進主体と推進方法及び実践例を学び、求められる地域共生社会の構築とそこへの参加の意味を考える。特に地域包括ケアシステム推進事例について理解を深める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

人間の存在の価値の下に、あらゆる人たちが自らの人生を全うすることができる地域社会の形成に必要な、社会福祉援助職としての基本的な知識と技能を身に付け、援助実践することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）授業ガイダンス～地域福祉とは何か	・当該コマ学習資料の読み込み（各回 1 時間） ・当該コマ学習資料（前回配布）の自己ノート作成（各回 1 時間） ・当該コマで提示する小レポート作成（各回 1 時間）
2）現代社会と地域福祉～生活変容と地域福祉の対象	
3）地域福祉の推進主体	
4）地方分権と地域福祉	
5）コミュニティの変容と福祉コミュニティ	
6）地域包括ケアシステムの視点と実践（理論と政策）	
7）地域包括ケアシステムの視点と実践（隠岐圏域の実践）	
8）地域共生の新たな実践（まとめ）	

［使用テキスト］

なし

［参考文献］

『人口減少時代の地域福祉』　野口定久　ミネルヴァ書房 2016 年
『地域福祉の源流と創造』　三浦文夫　右田紀久恵　大橋謙策　中央法規出版　2003 年
『地域包括ケアの実践と展望』　大橋謙策　白澤　政和　中央法規出版　2014 年

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認　（　30%）	授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び提出された課題レポートを評価。
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　70%）	筆記試験を実施
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］

・到達度確認のための小課題について評価後にコメントする。
・筆記試験解答についての解説を開示する。

［備考］

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-34-21

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
臨床心理学	講義	平野　美緒

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	4　セメスター	選択必修
☑ 実務経験	精神科・心療内科の心理職としての経験を活かし、実践的な心理臨床について講義する。					

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
人間理解について深めるために必要な臨床心理学的視点や基礎的理論について理解し、説明できるようになる。また、相談・援助活動の基礎となる、臨床心理学的援助の基礎技能について実践できるようになる。さらに、コミュニティや環境への臨床心理学的なアプローチをふまえて、心の健康の維持・増進・予防について説明できるようになる。	1+2

[授業全体の内容の概要]

福祉・教育・医療現場の事例を中心に取り入れ、授業を構成する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・臨床心理学に関する基礎知識（精神的不適応観、心理療法、心理アセスメントなど）や臨床心理学的視点について理解し、説明できるようになる。

・子どもや保護者などのより健康的な生活を支援するために保育者として必要な知識と技術を習得し、実践できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション ・こころについて ・臨床心理学の定義と意義	
2）臨床心理学的人間理解① ・「正常観」と「異常観」について	
3）臨床心理学的人間理解② ・「適応」と「不適応」	
4）臨床心理学的人間理解③ ・防衛機制について	
5）心理アセスメント① ・心理査定面接ついてロールプレイを行い学習する。	第 1～4 講の講義内容に関する小レポートを作成する。（30 分程度）
6）心理アセスメント② ・行動観察と心理検査	
7）臨床心理学的援助 ・心理療法の理論モデル ・心理療法の技法モデルについてロールプレイを行い学習する。	
8）授業のまとめと振り返り ・これまでの授業のまとめを行った後、課題レポートを作成する。 ・課題レポートをグループで共有し、他者の考え方や学びにふれ、自分の考えを整理し深める。	第 5～7 講の講義内容に関する小レポートを作成する。（30 分程度）

[使用テキスト]

高尾兼利、平山諭（編著）『保育と教育に生かす臨床心理学』ミネルヴァ書房

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 100%）	
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 課題について、第 8 回講義時に解説し、フィードバックを行う。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-B-12-26

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
障がい児保育Ⅱ	演習	舟越　美幸

授業の回数	8	回	時間数(単位数)	1	単位	配当	2	セメスター	選択必修

☑実務経験	保育者の実践経験をもとに障がいのある子どもの育ちと支援方法についてお伝えします。

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
・障がいのある子どもの思いや願い、共に育つ環境づくりを理解し、説明できるようになる。	1+2

［授業全体の内容の概要］

・合理的配慮や発達保障の観点から子どもが育つ環境について理解する。

・障がいのある子どもの育ちを支える保育環境、就学後の姿について実践的に学ぶ。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

・障がいのある子どもの思いや願いから共に生活や遊びを楽しみ、学び合う環境作りについて理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1)保育者にとって気になる子ども・気にする必要のある子ども ・子どもと保育者相互を主題とする保育のあり方について学ぶ。 ・障がいのある子どもが集団の中でかけがえのない自分を感じ、自分らしさを発揮できる保育のあり方について考える。	
2) 発達の源泉となる環境について① ・インターネットや文献から調査し、資料を作成する。	・インターネットや文献から題材を選び、資料を作成する（2～3ｈ）。
3) 発達の源泉となる環境について② ・第 2 講で作成した資料を基に発表する。	
4) 発達の源泉になる環境について③ ・発表した資料を基に、子どもの育ちを支える環境について理解する。	
5) 障がいのある子どもに必要な環境づくり ・事例を基に、学生相互に意見を出し話し合い、障がいのある子どもに必要な環境（ヒト - モノ - コト）について理解する。	
6) 外部施設の活動に参加する① ・外部施設の実際について事例を基に理解する。	
7) 外部施設の活動に参加する②（フィールドワーク） ・外部施設の施設見学や講話に触れ、その意義や内容について理解する。	
8) 外部施設の活動に参加する③（フィールドワーク） ・外部施設の活動に実際に参加し、子どもや支援者に触れることでその意義や内容について理解する。	

［使用テキスト］

・適宜プリントを配布します。

［参考文献］

・「最新保育講座 15・障害児保育」鯨岡峻，ミネルヴァ書房。

・「障碍児保育 30 年～子どもたちと歩んだ安来市効率保育所の軌跡～」，ミネルヴァ書房。

・「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美, ひとなる書房。

・「『気になる子』が変わるとき - 困難をかかえる子どもの発達と保育」木下孝司，かもがわ出版

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①　到達度の確認（　30%）	第 1 講（10%）・第 3・4 講（10%）・第 5 講（10%）振り返りシート
②　実技・作品発表等（　40%）	第 2 講発表資料（20%）・第 7 講レポート（20%）

【定期試験】

①　筆　記　試　験（　　%）	
②　レ　ポ　ー　ト（　30%）	第 8 講レポート作成
③　実　技　試　験（　　%）	
④　面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する

	□受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］　授業内で、コメントをしたり、関連する資料を配布します。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-12-48

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名） 障がいのある人の発達保障	授業の種類（講義･演習･実技･実習） 演習	授業担当者 余村　望・川内　紀世美 （オムニバス）

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	4　セメスター	選択必修

☑ 実務経験	知的障がい者援護施設での実務経験をもとに、地域社会が持つべき発達保障機能について伝えます。（余村）

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
発達保障理論を学ぶことにより、障がい児者の発達について理解し、説明できるようになる。また障がい児者への社会福祉制度を把握しつつ、共生社会の仕組みを理解し、そのあり方について考え・実践する保育者となる。	2＋3

[授業全体の内容の概要]

発達保障とはなにか、またそれはどのようにして生まれたのかを概観する。加えて、 障がいのある人たちの権利と生活保障の理念を踏まえた上で、将来の社会的自立を見据えた障がい者支援のあり方について、制度・実践面から概観しつつ考察を深める。また、成人期の支援についても、制度化された社会的サービスの概要を把握しつつ、より具体的な支援方法について理解し、検討を加える。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

発達とは何か、発達保障の歴史について学び、説明できる。
障がい児者福祉の根拠となる理念や考え方について理解し、説明できる。
障がい者に対する児童期から成人期に至る切れ目のない支援のあり方を学び、説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 授業ガイダンス・発達保障の思想と実践（川内） 日本の福祉教育の先駆者である糸賀一雄らの思想と実践から「発達保障」、「ヨコへの発達」について学ぶ。	・テキスト『〈ヨコへの発達〉とは何か』、『糸賀一雄の最期の講義―愛と共感の教育―』を読んでくること。（1 時間） ・映像視聴あり。
2) 特別支援教育と障がい児者福祉の歴史と思想（川内） 山陰の視覚障がい及び聴覚障がい教育の礎を築いた福田与志、遠藤董の功績を学ぶ。また、福田平治の生涯から障がい児者福祉の思想を学ぶ。	・配布資料を読んでくること。（1 時間） ・映像視聴あり。
3) 特別支援学校の教育（川内） 「固有ニーズに応ずる教育」、「特別ニーズ教育」、「特別支援教育」、「特別支援学校・通常学校」それぞれの概念を理解し、特別支援教育および特別支援学校の教育課程ならびに教育実践を学ぶ。	・配布資料を読んでくること。（1 時間）
4) インクルーシブ教育（川内） 分離教育から包摂教育（インクルーシブ教育）への転換について学び、保育所・幼稚園、学校、地域における支援策の現状について理解する。	・配布資料を読んでくること。（1 時間）
5) 障がいのある人の生活から学ぶ①（余村） 学習対象である NPO 法人こだまの事業理念、事業内容等について学ぶ。	・当該事業所の事業概要等について HP 等で情報収集し、ノートにまとめる。（1 時間）
6) 障がいのある人の生活から学ぶ②（余村） NPO 法人こだまに行き、利用者や職員と交流する中で障がいを持つ人の生活課題について理解を深める。	・事業所の事業に関して明らかにしたいテーマを設定する。（1.5 時間）
7) 障がいのある人の生活から学ぶ③（余村） NPO 法人こだまに行き、利用者や職員と交流する中で障がいを持つ人の生活課題について理解を深める。	
8) 障がいのある人の生活課題を特定し、その解決に向けたアクションについてレポートを作成する。（余村）	・得られた情報を、テーマに沿って整理する。（1.5 時間）

[使用テキスト]

『〈ヨコへの発達〉とは何か』垂髪あかり　日本標準 2020 年

[参考文献]

『この子らを世の光に』糸賀一雄　柏樹社 1965 年
『福祉の思想』糸賀一雄　NHK 出版 1968 年

『糸賀一雄の最期の講義―愛と共感の教育―』糸賀一雄　中川書店 2009 年 『夜明け前の子どもたちとともに（復刻版）』田中昌人　全国障害者問題研究会出版部 2006 年	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①　到達度の確認（ 50 %）	授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び提出された課題レポートを評価。
②　実技・作品発表等（　　%）	
【定期試験】	
①　筆　記　試　験（　　%）	
②　レ　ポ　ー　ト（ 50 %）	授業課題についてのレポート作成。
③　実　技　試　験（　　%）	
④　面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回検討課題について考察レポートを作成又はグループワークを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-34-49

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
教材研究（絵本）	演習	増原　真緒

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	選択必修
☑ 実務経験	保育士の経験を活かして，絵本の魅力および保育における活用方法について教示します。					

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・子どもの豊かな心を育むため，絵本の魅力と子どもの成長にもたらす効果について理解し，自分なりの考えを説明することができるようになる。 ・保育の実践と関連させて考えることによって，絵本の可能性を知り，お話から子どもの生活や遊びへの展開をイメージしながら，絵本を活用した活動の計画ができるようになる。	3

[授業全体の内容の概要]

① “Share books”（＝絵本で時間を共有し，人と人とを繋げる絵本）の視点から，絵本の多様性について考える。
② 絵本から遊びへの展開を知り，グループごとに実践する活動を計画する。
③ フィールドワークでは地域の保育所から招いた子どもに向け，グループごとに計画した絵本ワークショップを行う。
④ フィールドワークの振り返りから，絵本を活用した保育実践について学びを深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・絵本の読み方や絵本から発展する遊びについての知識を深め，考案・実践することができる。
・絵本の読み聞かせから活動への発展を考えた簡単な指導案を作成し，実践することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) ・“Share books”（＝絵本で時間を共有し，人と人とを繋げる絵本）について講話から理解を深める ・絵本を保育の活動に繋げる（講話・活動例の紹介） ・グループごとにワークショップの活動内容検討～内容・流れの決定 ・役割分担と製作物の決定	
2) ワークショップに向けた事前準備① 当日子どもたちと使用する物品の教材研究および準備	第１回で取り組んだ「活動の流れと内容・分担表」をグループごとに，期日までに提出すること。（0.5 時間程度）
3) ワークショップに向けた事前準備② 当日子どもたちと使用する物品の準備	
4) ・リハーサル ・相互評価とグループ検討	第 2～3 回で準備が整わなかったグループは授業外の時間で準備し，第 4 回リハーサルまでに準備を完了させておくこと。（1～3 時間）
5) ワークショップの事前準備（リハーサルからの見直し・改善）	
6) ワークショップ①〈フィールドワーク〉 直前準備を終え，来校した地域の保育所に在籍する子どもたちに対し，グループごとに計画したワークショップの活動を展開する。	
7) ワークショップ②〈フィールドワーク〉 ワークショップを展開し，子どもたちとともにその活動を展開し，振り返る。 片付け	
8) ・ワークショップの振り返り ・まとめ（総評）	第 7 回で課題提示した振り返りシートを時間外学習にて完成させ，第 8 回授業で活用できるよう持参すること。（0.5 時間）

[使用テキスト]

適宜，資料を配布します。

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 60 %）	グループごとの「活動の流れと内容・分担表」の提出および内容（10%），ワークショップに向けた準備への取り組み姿勢（30%），振り返りシートの提出と内容（20%）に

	て評価します。
②実技・作品発表等（ 40 %）	リハーサルの取り組み姿勢（15%），ワークショップ当日の取り組み姿勢（25%）にて評価します。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ リハーサル後に助言指導を行い，ワークショップ後の第 8 回に全体に向けた総評を行います。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-54

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
教材研究（おもちゃ・製作遊び）	演習	加藤 友彦

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター	選択必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子どもの豊かな心を育むために、保育・幼児教育や造形の知識にもとづき、子どもの発達と表現材料の特性に応じた玩具の製作や製作遊びを通して、保育・幼児教育における技能を身につけ、造形表現活動の意義を考察する。	1

[授業全体の内容の概要]

紙類、粘土類、自然素材、人工素材などの造形表現材料の特性を理解し、子どもの発達と表現材料に応じた玩具と製作遊びを構想し、製作し、保育・幼児教育の技能を習得し、製作物を鑑賞する。以上のことを通して、保育・幼児教育における造形表現活動の意義を考察する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①造形表現材料の特性と加工方法を分類し説明できる。
②子どもの発達を踏まえ、表現材料の特性に応じた玩具と製作遊びを考え、製作できる。
③製作物を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫を感じ取ることができる。
④保育・幼児教育における「もの」を用いた表現活動について考察し、レポートを作成できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。表現材料の特性をワークシートにまとめる。	テキストの該当ページを読んでおく。（1時間）
2）粘土類（粘土あそび）：土粘土を用いて感触遊びを楽しみ、遊びの中から主題を発想して立体で表現する。活動の振り返りを記述し、製作工程・完成作品は画像に記録する（以下、6回まで同様）。	スマートフォンで撮った画像をPCに取り込み、画像の大きささやレイアウトの操作をできるようにしておく。（1時間）
3）紙類：紙製品（紙コップ、紙皿など）を用いて玩具を製作する。	書籍やインターネットを活用して、製作する玩具を考え、アイデアスケッチをしておく。ておく。（1時間）
4）人工素材（樹脂類）：ペットボトル人形を製作する。	モチーフを考え、アイデアスケッチをしておく。（1時間）
5）自然素材（木工あそび）：木片を主な材料とし、釘やネジ類も活用して、木工遊びの中から主題を発想して立体で表現する。	ノコギリで木を切断したり、カナヅチで釘を打ったりする練習をしておく。（1時間）
6）人工素材（繊維類）：毛糸を用いてゆびあみをし、フェルトを用いてゆびにんぎょうを製作する。	モチーフを考え、アイデアスケッチをしておく（ゆびにんぎょう）。（1時間）
7）鑑賞：製作物を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫などを話し合い、ワークシートにまとめる。	活動の振り返りをまとめておく。（1時間）
8）まとめ：学習を振り返り、記録した画像を用いたレポートを作成する。	PCに取り込んだ画像の整理をしておく。（1時間）

[使用テキスト]

上野 奈初美　編著　『表現指導法』　萌文書林

[参考文献]

樋口 一成　編著　『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』　萌文書林

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　100%）	ワークシート（10%　第1、7回）　作品（75%　第2～6回） 授業内レポート（15%　第8回
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	

④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 第７回の鑑賞活動で製作物について講評する。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-55

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子どもの音楽表現Ⅰ	演習	長島　佳奈

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	3セメスター	選択必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
子どもの保育と音楽的な表現活動との関係について実践をとおして理解を深めることを目的とする。保育現場で実践する活動内容を検討、計画し、それらを実践発表することを通して、子どもの音楽表現に関する考えを各々が説明することができるようになることをねらいとする。	4

[授業全体の内容の概要]

保育や幼児教育の現場で使われる音楽的な表現活動の内容とその方法について説明する。第7、8回目の保育園での実践発表に向けて、学生らが考案した計画内容をもとに、活動方法の助言を行う。また、実践プログラムの中に、ダンスの項目も取り入れることを前提に、子ども向けのダンスの指導方法を講義と実演を交えて説明する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①子どもの保育と音楽的な表現活動との関係についての知識を深め、音楽表現活動のプログラムを考案し、実践することができる。

②音楽表現活動の展開方法を考案し、実践することができる。

③子ども向けのダンスの指導方法を体得し、実践することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション：子どもの保育と音楽的な表現活動の関係について理解し、学修の見通しを持つ。 構想〈グループ活動〉：実践発表の活動内容を検討し、ワークシートにまとめる。	
2）実践発表に向けた事前準備①	ワークシートが完成しなかった場合は、指定期日までに完成させ、提出をする（1時間）
3）実践発表に向けた事前準備②※子どもの歌を用いたダンスの実践も行う	不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）
4）実践発表に向けた事前準備③※手遊び歌も行う	不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）
5）リハーサル、相互評価	第5回目のリハーサルまでに準備を完了させておく。（1～3時間）
6）実践発表に向けた事前準備④リハーサルで行った内容の改善をする。	リハーサルでの学びをもとに、不十分なことがあれば、課外で練習する（1～2時間）
7）実践発表：保育園へ出向いて実践発表をする。	実践発表に向けて、課外で練習し、発表に備える（1～3時間）
8）実践発表と振り返り：実践発表での活動を振り返る。 まとめ（総評）	

[使用テキスト]

適宜、資料を配布します。

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 40 %）	ワークシート（20%）、振り返りシート（20%）にて評価します。
②実技・作品発表等（ 60 %）	リハーサルの取り組み姿勢（20%）、実践発表当日の取り組み姿勢（40%）にて評価します。

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	

④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 　学生個々の取り組み姿勢、状況および進行状況を鑑み、授業者からコメント・助言をする。リハーサルおよび本番後に振り返りを行うとともに、授業者から講評を行う。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-61

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
子どもの音楽表現Ⅱ	演習	長島　佳奈

授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	4セメスター	選択必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
一台のピアノによる4手または6手の連弾による音楽体験を通して、音楽表現力の向上を図ることを目的とする。連弾は、ピアノを演奏する技術や表現力のほか、他者と一緒に演奏するためのコミュニケーションスキルが必要である。協力して楽曲を創り上げ、完成させて演奏するという視点から、保育者として必要な協調性や人への思いやりなど、周りの人もうまくかかわる能力も向上させることをねらいとする。	4

[授業全体の内容の概要]

・連弾ではグループレッスンを行う。習熟度に合わせて段階を得てレッスンを行う。
・最終回ではピアノ連弾の発表会を実施する。
・発表会後は振り返りを行う。学生は、人前で演奏することを通して、発表の場における子どもの気持ちを体感し、保育者としてどのような配慮が必要かについてグループワークで考察してもらう。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・お互いの音を聴き、息遣いを感じながら、共同演奏の能力を向上することができる。
・表現したいイメージや感情を共有し、それを音楽として表現することができる。
・ピアノを演奏する技術と、連弾するためのコミュニケーションスキルを伸ばすことができる。
・他者と協力しながら楽曲を完成させるチームワークを身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) オリエンテーション ・連弾の基本的な弾き方について（指の位置、パートの役割など） ・ペア（あるいは3人）の決定、曲目の選定	
2) グループレッスン①:ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。	授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2時間）。
3) グループレッスン②:ピアノ連弾のレッスンをメンバーごとに受ける。	〃
4) グループレッスン③：ピアノ連弾のレッスン内に発表会の曲目の決定をする。	〃
5)グループレッスン④：ピアノ連弾のレッスンを受ける。 プログラムの考案①：発表会に向けて、簡単な曲目解説も作成する。 演奏順や進行の仕方も考案する。	〃
6) グループレッスン⑤：ピアノ連弾のレッスンを受ける。他者と協力しながら楽曲を完成させるための練習方法を学ぶ。 プログラムの考案②：発表会の演奏順の決定。各メンバーの曲目解説を まとめる。プログラム用紙を作成する。	・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2時間） ・曲目解説の作成が間に合わなかった場合、課外で完成させること（30分～1時間）
7) リハーサル：発表会のリハーサルを行う。リハーサル後、ピアノ連弾のレッスンを受ける。完成度を高めるために、各自が工夫し表現する方法を身につける。	・授業で出された課題について、都度自主的に練習を行うこと（1～2時間） ・プログラム用紙が完成できなかった場合、完成させ、指定期日までに提出すること（30分～1時間）。
8) 発表会、振り返り（グループワーク）	・楽曲の完成に向け練習を行うこと（1～2時間）

[使用テキスト]

適宜、資料を配布します。

[参考文献]

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】	
①到達度の確認（　40　%）	レッスン毎に楽曲の到達度の確認をします。
②実技・作品発表等（　60　%）	リハーサル（課題への取り組み姿勢 10%、課題の習熟度 10%）、発表会（課題への取り組み姿勢 10%と、課題の習熟度 30%）で評価します。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 毎回の授業において受講者の課題に対するフィードバックを行う。発表会では総評および振り返りを行う。	
［備考］ 履修者数を定員 12 名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行います。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-A-10-62

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習	増原　真緒

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	選択必修

☑ 実務経験	保育士経験を活かして子ども理解や指導案作成の方法，保育者の意図を持った保育について教示するとともに，実習に向けた準備等についてお伝えします。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・保育所の役割や機能，保育者の果たす役割を理解し，実習の目的，自己課題を明確化する。 ・指導案の作成方法を理解し，具体的に作成することで実践のイメージと繋げる。 ・保護者および地域支援や交流について総合的に学びを深める。 ・実習を通して感じた思いや疑問について，実習報告会を通して学び合う。	5

[授業全体の内容の概要]

① 実習の目的・内容を確認し，留意事項や心構えについて理解する。
② これまでの実習を振り返り，各年齢の発達と遊びを理解し，各年齢の保育活動を計画する。
③ ②の学びを踏まえて指導案を作成する。
④ 発達の理解や興味関心など子どもの実態を基に設定した内容について，年齢に見合った教材を研究する。
⑤ 実習報告会を通して，自他の振り返りにより学びを深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育実習のまとめとして，指導案の作成から実践を通し，自己課題・達成方法を見出すことができる。
・実習報告会から他者と実習での学びを深め合い，保育士としての保育観を表明することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）・オリエンテーション：講義概要の確認と本科目の説明 ・子ども理解：子どもの内面に寄り添う，共感，受け止めとは 〈グループワーク・ディスカッション〉 ・「実習課題と取り組み」の作成にあたって	※本科目では計画的な課題への取り組みと提出を重視するため，取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。
2）・実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方について ・保育の計画から設定保育の実施について：子どもの実態を土台とした指導案の作成方法と保育の実践 ・指導案作成：子どもの様子・クラスの実態から考え，行事との結びつきを考える。事前準備と使用教材の検討を行う。作成にあたっては下記のいずれかを選択する。 ①保育実習Ⅰａの実習日誌または「子どもの実態」カードから子どもの姿に即した計画を立て，指導案を作成する。（1～5 歳児） ②幼稚園実習で出逢った子どもの様子を思い起こして指導案を作成する。（3～5 歳児）	・指導案の作成については主に家庭学習にて取り組み，指定された期日までに提出すること。最終提出までに教員の添削指導が数回にわたって行われるため，最終提出期限から逆算して計画的に取り組むことを勧める。（1～3 時間程度） ※科目担当教員および臨時講師による指導案の添削指導を行う。
3）・「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明，留意事項の確認 ・実習日誌の記録方法（確認） ・保護者支援と地域支援・交流	
4）・指導案に基づいた実践①：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ，模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。	※模擬保育に向け，指定した期日までに指導案を完成させ，最終提出すること。 （到達度の確認）（1～3 時間程度）
5）・指導案に基づいた実践②：学生同士で保育者役と子ども役に分かれ，模擬保育を行う。模擬保育中は科目担当教員および臨時講師が分かれて監督・指導を行う。 ・実践の振り返りから，実習における設定保育の在り方について考える。	※第 4～5 回で模擬保育を実施するため，使用したい物品（主に消耗品）を事前に購入・収集し，必要に応じて事前準備しておくこと。（0.5～3 時間程度）
6）・模擬保育の実施からの振り返り ・お礼状および実習報告書の作成方法（確認）保育実習Ⅱに向けた最終確認	
7）・実習の振り返り：設定保育，保育技術，保護者および地域支援について	

8) 【実習報告会】	
［使用テキスト］ 実習運営員会『実習ガイドブック』，2023，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）	
［参考文献］ ・小櫃智子ら，『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら，『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社	
［試験の方法と学修成果の評価基準］	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 80 %）	実習準備および実習後指導として出す課題（子ども理解ワークシート，模擬保育および実習の振り返りシート等）の提出期限厳守および提出物の内容について評価します。また，第 2 回から模擬保育実施日に向けて作成する指導案の提出および記述内容にて評価します。
②実技・作品発表等（ 20 %）	第 4～5 回の模擬保育について評価します。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ ・指導案については授業時間外の個別対応にて指導およびフィードバックを行います。 ・模擬保育については，第 5 回終了後にコメントします。	
［備考］ この科目を履修するためには，「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修しなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-68

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育実習指導Ⅲ（児童福祉施設）	演習	堅田　弘行

授業の回数	8　回	時間数(単位数)	1　単位	配当	3　セメスター	選択必修

☑ 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、日常生活支援の方法や内容と伝えます。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
保育実習Ⅲ（児童福祉施設）の事前準備を行い、実習課題の達成を目指す。また、実習後の振り返りを通して、子どもの最善の利益を追求した保育について考えることができることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべての DP と共通する。	5

[授業全体の内容の概要]

これまでの学習の振り返りをもとに、保育実習Ⅲの学習内容を確認する。様々なデータから児童福祉施設の抱える課題について学習し、子どもや利用者の自立に向けた社会の取り組みについてグループワークを交えながら授業を行う。第 1 講から第 2 講の間に実習施設決定のための面談を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における計画に基づいた実際の関わりや様々な活動について説明できる。
2. 実習や実習報告会に取り組み、子どもや利用者のニーズを推測することができる。
3. 実習や実習報告会に取り組み、自分の今度の課題や目標を明確にできる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション	希望する実習施設候補を挙げる。（1 時間）
2）実習に向けた準備①（子ども・利用者理解） ・視聴教材をもとに子どもや利用者の様々な側面を捉える。	実習の目的を明確に説明する。（1 時間）
3）実習に向けた準備②（子ども・利用者理解） ・視聴教材をもとに自立を目指した連携の在り方を学ぶ。	
4）実習に向けた準備③（実習書類の作成） ・実習ファイル、「実習課題と取り組み」、「個人票」を作成する。	「実習課題と取り組み」の下書きをおこなう。（2 時間）
5）実習に向けた準備④（子ども・利用者理解） ・事例をもとに、子どもや利用者のニーズを考察する。	
6）実習の振り返り① ・実習の自己評価をもとに、振り返りをおこなう。 ・実習報告書を作成する。	
7）実習の振り返り② ・実習報告書を確認し、質問を検討する。	履修者全員の実習報告書を一読する。(2 時間)
8）実習報告会 ・実習を通して学んだこと、気づいたこと、感じたことを発表する。 ・質疑応答を積極的におこない、今後の自己課題を明確にする。	発表原稿を準備する（2 時間）

[使用テキスト]

保育・幼児教育学科，『実習ガイドブック』，2023.

[参考文献]

田中利則(監)，『事例を通して学びを深める施設実習ガイド』，2018，ミネルヴァ書房.

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　60%）	各回における課題の提出状況と内容によって評価します。
②実技・作品発表等（　40%）	実習報告会での発表によって評価します。

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］
毎回の授業時に提出課題の振り返りを行います。

［備考］
1.保育実習Ⅲ(児童福祉施設)と同時に履修することが必要です。
2.この科目を履修するためには、保育実習指導Ⅰb（児童福祉施設）の単位を修得していなければなりません。
3. classroomを使用しますので、授業中を含めアクセスできる端末を準備してください。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-69

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育実習Ⅱ（保育所）	実習	増原　真緒

授業の回数	80 時間	時間数(単位数)	2　単位	配当	3　セメスター	選択必修

☑ 実務経験	元保育士の視点から，保護者支援，保育の計画等，実習における学びについて指導します。

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
・保育所の社会的役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・観察や関わりの視点を明確にすることによって子ども理解を深める。 ・本学で学んだ内容や保育実習Ⅰａ（保育所）の経験を踏まえ，保育全体への理解を深めるとともに，その場に応じた実践を行う。 ・保護者や家庭への支援，地域社会との連携について学ぶ。 ・保育の観察から計画，実践，記録及び自己評価について具体的な実践に結び付けて理解する。 ・保育者としての自己課題を明確化する。	5

[授業全体の内容の概要]

保育実習Ⅰａ（保育所）の学びや子ども理解を深めると共に，主体的にその場に応じた実践を行う。保護者や家庭への支援・地域社会との連携について知る。保育課程に基づいて指導案を作成し，実践する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・保育所の社会的役割について理解を深めると共に，保護者や家庭への支援，地域社会との連携について説明できる。
・保育者の行動を参考に主体的に行動し，その場に応じた行動・配慮ができる。
・集団と個の理解をした上で設定保育に臨み，保育を省察することができる。
・実習から自己課題を明確化し，自らの保育観について表明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
① 保育所の社会的役割や機能についての理解 ・保育所の社会的な役割，機能について，実践的に理解を深める。 ・保育は養護と教育が一体となって行われるものであることを実践的に学ぶ。 ② 子ども理解 ・クラス集団の様子や全体的な発達，興味関心を捉えることによって，クラスの実態について理解を深める。 ・子ども一人一人の心身の状態や発達過程，興味関心を捉えることで子ども理解を深める。 ・保育者の関わりや配慮からその意図を考え，子ども理解につなげるとともに自身の関わりに結び付ける。 ③ 保育の理解とその場に応じた実践 ・保育所及びクラスの生活の流れや展開を把握することによって，その場に応じた行動をする。 ・「生活や遊びを通して総合的に行う保育」について保育者の姿や子どもとの関わりの場面から理解を深める。 ④ 保護者や家庭への支援と，地域社会との連携 ・保護者への支援及び地域の子育て家庭への支援について，保育所の取り組みや保育者の日々の姿，事例等を通して学ぶ。 ・地域社会との連携について，保育所の取り組みから様々な連携や交流について知る。 ⑤ 計画，実践，記録及び自己評価 ・保育における PDCA サイクル（計画―実践―省察―評価）を理解する。 ・クラスの実態に応じて指導案を作成の上，保育を実践し，自己評価を行う。（設定保育） ⑥ 自己課題の明確化 ・保育士資格を取得し，保育者となるための，自己の課題を明確にし，達成のための方法を考える。	※実習に向けて，および実習期間中は，実習指導Ⅱ（保育所）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから更に学びを深めることを求めます。また，期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。（各日 2～3 時間程度） ※指導案作成のために，子どもの興味・関心のある多種多様な遊びについて学んでおくことを求めます。また，指導案を作成し，必要な準備材料を揃え，設定北に向けた事前準備を行います。（2～4 時間程度）

[使用テキスト]

・実習運営員会，『改訂　実習ガイドブック』，2023，大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科（松江キャンパス）
・厚生労働省，『保育所保育指針解説』，2018，フレーベル館

[参考文献]

・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』，2017，わかば社 ・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2015，わかば社	
［試験の方法と学修成果の評価基準］	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 40 %）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み，身だしなみ検査）と，実習後指導における課題の提出および内容（お礼状，実習報告書，実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表等（ 60 %）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全 14 項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 実習終了後，実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
［備考］ ・この科目を履修するためには，「保育実習Ⅰa（保育所）」の単位を修得していなければなりません。 ・この科目を履修するためには，「保育実習指導Ⅱ（保育所）」を履修しなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-72

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育実習Ⅲ（児童福祉施設）	演習	堅田　弘行

授業の回数	80　時間	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	選択必修
□ 実務経験						

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。 2. 施設の生活や保育の流れを把握し、個々に応じた支援の実際への観察と参加を通してその方法を学ぶ。 3. 子どもや利用者、その家族の抱える課題や社会的背景について理解し、様々な連携について学ぶ。	5

［授業全体の内容の概要］

以下の施設のいずれかで実習をおこなう。感染症等の状況によって実習施設を変更する場合がある。

松江赤十字乳児院、米子聖園ベビーホーム、米子聖園天使園、光徳子供学園、聖嗅寮、青谷こども学園、櫻苑、こだま、四ツ葉園、さざなみ学園、こくぶ学園、あかしや、みらい、喜多原学園、ぽっぽ

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。
2. 子どもの最善の利益を追求した自身の保育観を深め、討論できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
① 各実習施設の社会的役割と機能について理解を深める。 ・各実習施設が地域や社会から求められている役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。 ② 子どもや利用者の個人差について理解し、生活支援や生活援助の方法を習得する。 ・生活の様子や態度から様々な個人差のありようを理解する。 ・一人一人に応じた生活技能の習得や学習支援、職業訓練の計画について、実際的な関わりを通して理解する。 ③ 子どもや利用者のニーズ、思いや意図を汲み取りながら、当たり前の日常を保障するための関わりについて保育者や職員の姿から学びを深め、自らの実践に繋げる。 ・保育者や職員の行動をよく観察し、多岐にわたる業務を把握する。 ・子どもや利用者の自立のために行う業務について知り、理解を深める。 ・実習指導者の指導及び指示の下、指導員や保育者の補助的立場として子どもや利用者への対応を行う。 ④ 個別支援計画や自立支援計画などの計画に基づく援助や支援のありようを理解する。 ・個別の計画に基づく具体的な援助や支援に参加する。また、計画の作成と実践との関連性を理解する。 ・子どもや利用者、その家族への支援や対応のありようを理解する。 ⑤ 児童福祉施設等の周辺の地域資源の利用や地域社会との連携の方法を具体的に学ぶ。 ・地域や地域社会との連携や協働の様子について体験的に理解する。 ⑥ 最善の利益への配慮について学ぶ。 ・子どもや利用者の生活に参加し、最善の利益について考察する。 ・自らの受容と共感の態度について、参加や観察を通して自覚し、実践する。	実習に向けて，および実習期間中は，実習指導Ⅲ（児童児福祉施設）で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また，期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。（各日 2～3 時間程度）

［使用テキスト］

保育・幼児教育学科，『実習ガイドブック』，2023.

［参考文献］

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認（　60%）	実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。

②実技・作品発表等（　40%）	実習日誌と実習報告書によって評価します。
【定期試験】	
①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 実習終了後，実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
［備考］ 1. 保育実習指導Ⅲ（児童福祉施設）と同時に履修することが必要です。 2. この科目を履修するためには、保育実習Ｉｂ（児童福祉施設）の単位を修得していなければなりません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-73

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
キャリアアップ教育Ⅲ	演習	加藤　友彦

授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター	卒業必修
□ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。	5

[授業全体の内容の概要]

キャリア教育の第 3 段階と位置づけ、小論文、面接練習を中心に就職試験対策を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

①就職あるいは進学先を想定した履歴書を作成することができる。
②就職あるいは編入試験問題を想定した小論文を記述することができる。
③適切な態度で面接を受けることができる。
④就職先あるいは進学先を想定したキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 2023 年度進路就職ガイダンス：進路就職活動の流れを把握し、進路就職関連の諸調査表に記入・記述する。	
2）就職情報の収集：福祉人材センターの講話を聴き、ワークシートに記述する。	就職希望先の HP を見て情報を収集しておく。（1 時間）
3）履歴書：就職先を想定した履歴書（本学科書式）を作成する。 第 3 回進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。	1 年次に作成した履歴書をもとに、就職あるいは進学希望先を想定した志望動機を考えておく。（1 時間）
4）小論文①：提示されたテーマをもとに小論文を記述する。	事前に提示されたテーマをもとに回答内容を考えておく。（1 時間）
5）面接練習〈グループワーク〉：外部講師（キャリアコンサルタント）から面接の心構えを聴く。グループで面接練習を行う。面接練習後に振り返りをしてワークシートに記述する。	就職あるいは進学希望先を想定した自己 PR と志望動機を話すことができるようにしておく。（1 時間）
6）小論文②：提示されたテーマをもとに小論文を記述する。	事前に提示されたテーマをもとに回答内容を考えておく。（1 時間）
7）就職情報の収集：外部講師（キャリアコンサルタント）から、就職後のトラブル対応について講話を聴き、ワークシートに記述する。	
8）まとめ：学習を振り返り、自己理解と職業理解にもとづいてキャリアデザインを考え、レポートを作成する。	返却されたワークシートをまとめておく。

[使用テキスト]

なし

[参考文献]

なし

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　100%）	履歴書（10%、第 3 回）　ワークシート（20%、第 5、7 回）　小論文（40%、第 4・6 回） 授業内レポート（30%、第 8 回）
②実技・作品発表等（　　%）	

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	

平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
［フィードバックの方法］ 第 8 回でフィードバックを行う。	
［備考］	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-84

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育研究ゼミⅠ	演習	堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈

授業の回数	時間数(単位数)	配当	
8 回	1 単位	3 セメスター	卒業必修

☑ 実務経験

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
科学的な根拠に基づいた保育・幼児教育・子育て支援の在り方を探求する中で、卒業研究に取り組み、「ものごとを整理する」、「文章にまとめる」、「人に説明する」、「人の意見を聞いて自分の意見を発表する」などの力を身に付ける。	5

[授業全体の内容の概要]

・研究計画書をもとに、文献研究や調査、発表、討論などを繰り返しながら、卒業研究のアウトラインを作成する。個々の研究に基づき卒業論文の執筆作業や卒業制作をおこなう。第 1 回～第 6 回の授業はゼミに分かれて実施する。第 7 回～第 8 回は 2 グループに分かれて発表会を実施する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 保育・幼児教育・子育て支援の諸課題に関して課題意識を持ち、自ら研究課題を発掘することができる。
2. 主体的に学ぶ姿勢や日々の学修を積み上げていく習慣を身に付ける。
3. 課題解決のために必要な情報を収集し、考察を加え、自分なりの解決策を提案するための見通しを示す。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1) 卒業研究提出までの見通しをもつ ・オリエンテーション終了後、ゼミに分かれて活動する。	
2) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論①	卒業研究のための文献研究や調査を実施したり、ゼミ教員との授業外での指導を受けたりする。 （1 コマにつき 5 時間～6 時間程度）
3) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論②	
4) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論③	
5) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論④	
6) 先行研究の分析／フィールドワーク／卒業研究の経過報告と討論⑤	
7) 卒業研究中間発表会① ・質疑応答を通して、以後の研究についての示唆を得る。	発表の準備、練習をおこなう。（1 時間）
8) 卒業研究中間発表会② ・質疑応答を通して、以後の研究についての示唆を得る。	発表の準備、練習をおこなう。（1 時間）

[使用テキスト]

保育・幼児教育学科，『2024 年度卒業研究の手引き』，2023.

[参考文献]

戸田山和久，『新版　論文の教室』，2018，NHK 出版.
中坪史典他(編)，『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』，2021，ミネルヴァ書房.

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（ 50%）	授業の取り組み姿勢や各回の提出物によって各ゼミ教員が評価する。
②実技・作品発表等（ 50%）	第 7 回・第 8 回の卒業研究中間発表会での発表姿勢や態度、内容によって評価する。

【定期試験】

①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

各ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業外でおこなう場合もある。

[備考]

初回授業の中で、評価についての詳細を説明する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-S-50-88

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
保育研究ゼミⅡ	演習	堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈

授業の回数	16 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	卒業必修
☑ 実務経験						

[授業の目的・ねらい]	主に対応するＤＰ
科学的な根拠に基づいた保育・幼児教育・子育て支援の在り方を探求する中で、卒業研究に取り組み、「ものごとを整理する」、「文章にまとめる」、「人に説明する」、「人の意見を聞いて自分の意見を発表する」などの力を身に付ける。設定した課題への考察を深め、卒業研究論文等を完成させる。	5

[授業全体の内容の概要]

「保育研究ゼミⅠ」の中間発表会での質問や意見等を参考に、ゼミごとに文献研究や調査、発表、討論などを繰り返しながら、卒業研究論文等にまとめる。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 保育・幼児教育・子育て支援の諸課題に関して課題意識を持ち、自ら研究課題を発掘することができる。
2. 主体的に学ぶ姿勢や日々の学修を積み上げていく習慣を身に付ける。
3. 課題解決のために必要な情報を収集し、考察を加え、自分なりの解決策を提案することができる。
4. 研究内容を卒業研究論文等にまとめ、他者にわかりやすく説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]	[準備学修の内容]
1）研究活動／執筆活動等①	卒業研究のための文献研究や調査を実施したり、ゼミ教員との授業外での指導を受けたりする。 （1 コマにつき 5 時間～6 時間程度）
2）研究活動／執筆活動等②	
3）研究活動／執筆活動等③	
4）研究活動／執筆活動等④	
5）研究活動／執筆活動等⑤	
6）研究活動／執筆活動等⑥	
7）研究活動／執筆活動等⑦	
8）研究活動／執筆活動等⑧	
9）保育・教育研究発表会①	発表の予行練習や発表原稿の作成をする。他者の発表資料を読み、疑問点や意見をまとめておく。（3 時間程度）
10）保育・教育研究発表会②	
11）保育・教育研究発表会③	
12）保育・教育研究発表会④	
13）保育・教育研究発表会⑤	
14）保育・教育研究発表会⑥	
15）保育・教育研究発表会⑦	
16）保育・教育研究発表会⑧	

[使用テキスト]

保育・幼児教育学科，『2024 年度卒業研究の手引き』，2023.

[参考文献]

戸田山和久，『新版　論文の教室』，2018，NHK 出版.

中坪史典他(編)，『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』，2021，ミネルヴァ書房.

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（　　%）	
②実技・作品発表等（　30%）	保育・教育研究発表会での発表や他者への質問によって評価する。

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　70%）	期限内に提出された卒業研究論文等によって評価する。
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する

	□　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］
各ゼミ教員によって、都度授業内で解説したり、コメントしたりする。授業外でおこなう場合もある。

［備考］
・第 1 回～第 8 回はゼミごとによって授業場所が異なる。
・2022 年度以降の入学生は、「保育研究ゼミⅠ」の単位を修得していない場合、この科目を履修することはできない。
・評価の詳細は「卒業研究の手引き」による。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-S-50-89

保育・幼児教育学科

授業のタイトル（科目名）	授業の種類（講義･演習･実技･実習）	授業担当者
キャリアアップ教育Ⅳ	演習	加藤　友彦

授業の回数	時間数(単位数)	配当	
8 回	1 単位	4 セメスター	選択

☐ 実務経験

［授業の目的・ねらい］	主に対応するＤＰ
社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につけることができる。	5

［授業全体の内容の概要］

キャリア教育の第 4 段階と位置づけ、ライフステージにおける自己課題を設定し、課題解決のための資料を収集し、資料を分析、考察をし、発表資料を作成し、発表を行う。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

①自己課題を設定することができる。

②課題の解決のために必要な資料を収集しパワーポイントにまとめることができる。

③まとめたことを発表することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］	［準備学修の内容］
1）オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ 自己課題の設定：ライフステージにおける自己課題を設定する。	
2）自己課題の決定：ライフステージにおける自己課題を決定し、資料収集の準備をする。	
3）資料の収集①：ライフステージにおける自己課題にもとづき、必要な資料を収集する。	
4）資料の収集②：ライフステージにおける自己課題にもとづき、必要な資料を収集する。	
5）分析と考察①：収集した資料にもとづき、課題の分析をする。	
6）分析と考察②：課題の分析にもとづき、考察をする。	
7）分析と考察③：考察にもとづき、発表資料を作成する。	
8）発表：調査・研究の成果を発表する。発表者以外は感想等を述べる。	

［使用テキスト］

なし

［参考文献］

なし

［試験の方法と学修成果の評価基準］

【平常試験】

①到達度の確認（　70%）	まとめた発表資料（パワーポイント）
②実技・作品発表等（　30%）	発表の様子（発表の態度・質疑応答）

【定期試験】

①筆　記　試　験（　　%）	
②レ　ポ　ー　ト（　　%）	
③実　技　試　験（　　%）	
④面　接　試　験（　　%）	
平常点評価	☐　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☑　受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

［フィードバックの方法］

第 8 回の発表後にフィードバックを行う。

［備考］

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2-PC-50-85